石川高専だより

No.105
2024/03

National Institute of Technology (KOSEN), Ishikawa College

CONTENTS

01 校長メッセージ
02 2年生学外見学／3年生合宿研修／4年生研修旅行
07 全国高専コンテスト ロボコン/デザコン/プロコン/プレコン
11 文芸コンクール／オンリー1プロジェクト
12 紀友祭
13 高専体育大会 北陸地区大会・全国大会
15 体験入学／オープンカレッジ
17 入試説明会／学生会
19 有朋寮
21 学科・専攻科だより
27 専攻科長期インターンシップ
28 トライアル研究センターだより
29 技術振興交流会/企業技術説明会
31 国際交流だより／同窓会だより
33 NEWS & TOPICS／人事異動
石川高専のたからもの／随想

考えること

石川工業高等専門学校長　嶋倉　剛

日本は災害大国であり、数年にも及ぶ群発地震に様々な対策を講じ、豪雨の度ごとに地震の影響を注意喚起するなど、人々は災害の危険を軽視したことはないと思います。

私は、東日本大震災より15年ほど前に宮城県に在住していましたが、そこでも、公共施設入り口ホールに掲げられた津波被害予想地図、海岸近い郊外道路で柱等の高所に掲げられた過去の大津波の高さを示す赤い矢印が印象的でした。

今回の地震後にネット等を見ると、専門家はそれなりに正確に今回の大地震に警鐘を鳴らしていたようですし、自治体も対策強化を考えていたようです。

地震に限らず、近年の自然の驚異は人の想定や対策を容易に超えるように感じてしまいます。我々は、自然の猛威をより正確に見積もり、必要な策を必要な時に講じ、それでも被害が生じたなら速やかに安寧を取り戻す努力を続けるしかないと思います。

話は変わりますが、生成系ＡＩが急速に進化・普及し、人間にとって脅威となる場面すら生じつつあるようです。現代はネット上の情報を読むにも情報リテラシーが試されるやっかいな時代です。

ただ、若者に危惧することは、便利なモノに頼ってばかりでは弱くなるということです。距離に関係なく車に頼る地域の生活は、都会の地下鉄等乗り継ぎで階段を上り下りする暮らしに比べ足腰も心肺機能も衰えます。

生成系ＡＩを利用すれば、ネット上の様々な情報を上手に繋ぎ合わせて、要求に応じた答えをくれるでしょう。しかし、その要求や指示自体が利用目的に対し妥当かどうかについては、深く考える必要があります。

実験実習を通して知識と技能を体得していく高専生の皆さんなら、理論通りにやっているはずなのに結果が出ないと思ったら、実は思いもよらない落とし穴に嵌っていたといった経験があるはずです。

未来を切り開くには、自身が物事の本質を見極め、論理的に思考する力を身につけなければなりません。

昔、私が関わった国の学術政策を論ずる機関の仕事で、ある先生方が大激論をしていました。一方は、イノベーションを実現するため、既知の知識を繋ぎ合わせて、繋がらないところを乗り越えるブレークスルーを狙う研究を振興する政策が必要だという意見。対して、真理を追究し結果を得た後に利用方途がありそうなら考えれば良いのであって、初めからブレークスルー狙いなど邪道という意見。後者は、現代社会の基盤となっている技術を多く生み出した、イノベーションの塊のような先生の意見です。しかし、今日の社会を支える科学技術政策は、DXやSDGsを持ち出すまでもなく、前者の先生が語ったものに近いのが現状です。

改めて考えると、どちらも難しい課題こそ人が徹底的に考えるべき、ということを前提にした議論でした。私自身、真意を理解できている自信はありません。ただ、現在でも決して変わらない人が自ら考えることの重要性を、これから社会に出る皆さんには意識して体得していってもらいたいと願っています。

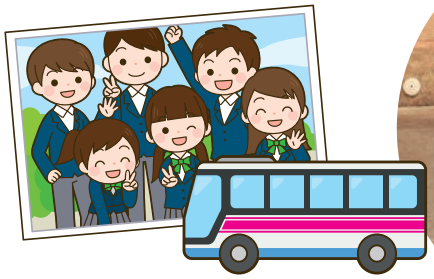
2年生 学外見学

2年生学年主任／香本　直子

本科2年生は9月28日に飛騨高山（高山市）と白川郷荻町合掌集落（大野郡白川村）に行ってきました。今年の２年生にとっては入学以来初めての学年単位での学外行事となりました。コロナ禍を経て、みながそろって出かけることができる日々の平穏に感謝しつつ、１日を楽しく有意義に過ごしました。

集合時は小雨となりましたが、遅刻者もなく、予定どおりの時刻に学校を出発しました。最初の目的地である国際観光都市・飛騨高山に着くころには雨も上がり、バスを降り立つと他の観光客と混じりながら、学生は思い思いに自由な時間を過ごしました。事前の調査をもとに目的地に向かう学生もいれば、バスを降りれば自由行動となる学外見学のスタイルに最初は戸惑いを感じている様子の学生もいましたが、徐々にそれぞれのやり方で楽しみ方を考え、古い町並を散策しながら、「高山陣屋」、「高山昭和館」、「飛騨高山レトロミュージアム」、「高山別院照蓮寺」、「櫻山八幡宮」といった場所で見学を行いました。立ち寄ったお店で飛騨牛コロッケや串焼き、五平餅やみたらし団子、ソフトクリームを楽しむ学生もいました。また、思い思いの場所で昼食をとりました。高山陣屋館内を巡り、江戸時代の代官・郡代所跡を見学する学生もいれば、昭和館で昭和30年代当時の生活や文化に思いを馳せる学生もいました。また散策途中で古い街の景観を保存するために電柱がないことや街並みの景観に配慮してコンビニエンスストアの店舗の色が変更されていることを観察したり、鴨や鯉のいる川で景観を楽しんだり、と充実した時間を過ごしました。

次の目的地である世界遺産・白川郷に着くまでに少し雨が強くなりましたが、（駐車場せせらぎ公園）にはほぼ時間どおり到着しました。バスを降りた後は、傘を差しつつ、114棟が立ち並ぶ合掌造り集落の見学に向かいました。集落に向かう際に渡る107mの吊り橋「であい橋」や、そこから眺める川の流れや山々の景色は壮観でした。学生は国の重要文化財である「和田家」のほか、「明善寺郷土館」、「白川八幡神社」、「合掌造り民家園」、「天龍宮」などで、さまざまな形で自然に向き合ってきた人々の生活に思いを寄せました。豪雪地帯で生活をしていくための工夫として、分厚く急勾配に作られた茅葺屋根や２階に作られた扉を観察したり、合掌造り家屋内に展示されている囲炉裏、畳や障子を見学したりしました。雨宿りで入ったお店で、多言語対応やキャッシュレス対応といった観光地での工夫を知ったり、民芸品や工芸品の展示とその解説に見入ったりなどして過ごす学生もいれば、展望台まで足をのばし、霧の中で大自然に合掌造り家屋が立ち並ぶ風景を一望する学生もいました。



学校には予定どおり17時に全員が無事戻りました。自分で撮った風景や建築物の写真に解説を添えて提出するという課題をこなし、見学を締めくくりました。

3年生 合宿研修

機械工学科 Mechanical Engineering

担任／池田　生馬

機械工学科3年は、9/28(木)と9/29(金)の1泊2日の日程で、滋賀県への企業見学を主な内容とする合宿研修を行いました。

1日目にはパナソニック株式会社 草津工場へ伺い、会社概要やインターンシップを通じて今、高専生が求められているというお話を拝聴したのちに、燃料電池と食洗機の2グループに分かれて見学を行いました。当初、電機メーカーということで、機械と関わりが薄いかなという先入観が学生たちにはありましたが、この見学を通して、機械工学を勉強している人材が想像より広い範囲で求められていることを体感したものと思います。

2日目にはスーパーマーケットのバックヤードなどで使われる食品用のハカリで世界トップシェアを誇る株式会社イシダへ伺いました。工場見学を行ったのちに、高専出身の社員の方々と意見交換を行いました。特に、高専出身者の活躍を目の当たりにしたことは、今後の自分たちの進路について深く考えるきっかけになったのではないかと思います。

パナソニック株式会社 草津工場にて集合写真

電気工学科 Electrical Engineering

担任／田中　文章

電気工学科 3年生は、9月28日～9月29日で滋賀県と京都府を訪問しました。

初日は、滋賀県草津市のパナソニック株式会社 くらしアプライアンス社を訪問しました。ここでは、都市ガスやLPガスより水素を取り出し、電気と熱を発生させ給湯も行う、燃料電池エネファームの製造ラインと食洗機の製造ラインを見学しました。高専卒業生等の専門知識・技術を持った者が行う仕事(製造技術など)について、分かりやすく説明していただき、その後、ショールームの見学を行いました。

パナソニック株式会社
くらしアプライアンス社での集合写真

翌29日は、京都府長岡京市にあるレンゴー株式会社 新京都事業所を訪問しました。北陸には、福井に工場があり、段ボール製造で国内のトップシェアを誇る企業です。大型機械が多く非常に圧倒されました。また、東京オリンピックで用いられた段ボール製のベッドに横になったり、段ボールの立体やペン立ての作成(段ボールを用いた梱包材などの作成技術の応用)なども行いました。

やや慌ただしい日程になりましたが、将来を考える上で非常に有意義な時間となったと感じております。

パナソニック株式会社　くらしアプライアンス社見学の様子

作成前のボールペン立て及び完成した様子

レンゴー株式会社 新京都事業所
開封のしやすさを考慮したパッケージを開封する様子

電子情報工学科 Electronics and Information Engineering　担任／山田　健二

電子情報工学科3年生の合宿研修は、担任山田と副担任三吉の引率にて長野県で行いました。1日目は茅野市まで移動し、株式会社DISCOの工場を見学しました。半導体の後工程の一部、「切る・削る・磨く」で世界トップシェアを誇る世界最高レベルの技術やユニークな社内通貨（will：ウィル）、そして高い技術力による内製化の状況を知ることができました。社員の方々が仕事に主体的に取り組まれている様子の他、宿泊施設やスポーツ活動のできる福利厚生も魅力的でした。機械工学科、電子情報工学科のOBOGも参加され、仕事内容を分かりやすく説明していただきました。2日目は安曇野市に本社のあるVAIO株式会社の工場を見学しました。ノートPCの製造現場、耐久試験など大変貴重な見学会となりました。高専出身の若手やベテランの社員の方々も参加され、将来の進路選択についてのアドバイスをいただきました。研修後の学生らの感想には、実際のものづくりの現場を見学したからこそ感じる、驚きや関心の芽生えが多くありました。現在学んでいる専門科目の基礎にしっかり取り組み、将来の進路選択時に備えていって欲しいと思います。

株式会社DISCO 見学後の集合写真の様子

VAIO株式会社 見学後の集合写真の様子

環境都市工学科 Civil Engineering　担任／大橋　慶介

9月28日（木）から29日（金）の2日間で、三重、愛知、岐阜の順に移動し、見学先を巡ってきました。初日は、水資源機構の長良川河口堰を訪れました。建設時は環境保護団体の猛反対から全国的な社会運動に発展した過去を持つ河川構造物です。巨大プロジェクトでは避けて通れない、賛否両論のなかでの意思決定や工事完遂の難しさに触れられたのではないかと思います。お会いできませんでしたが、石川高専OBも管理所に勤務されているとのお話でした。そのあとは、ナガシマスパーランドで絶叫マシンを楽しみました。

2日目は、新丸山ダム建設現場見学です。豪雨災害が多発するなかで、国は効率的なダム運用による洪水被害の低減を掲げて、ダム再生事業を進めています。既存ダムを活用した珍しい嵩上げ工法の工事現場を見学しました。偶然、ダイナマイトによる発破作業にも立ち会えたりと、工事の安全管理風景や技術者の責任の重さを感じて貰えたと思います。そして、国内3位、世界12位の長さの飛騨トンネルを通る帰路につきました。

新丸山ダム建設現場

水資源機構 長良川河口堰管理所にて集合写真

水資源機構 長良川河口堰管理所

建築学科 Architecture　担任／小川　福嗣

3年建築学科は、船戸教員と私の引率で愛知県および岐阜県にて合宿研修を行いました。

1日目は愛知県にある博物館明治村、岐阜県の岐阜県庁舎および岐阜メディアコスモス（岐阜市立図書館）に行きました。明治村ではフランクロイドライトが設計した帝国ホテルなどの明治建築を見てまわりました。岐阜県庁舎見学では担当者から、旧庁舎で使われていたものの再利用や県産材の活用などの設計・建設時考慮した点などの説明もいただきました。

2日目は、モザイクタイルミュージアム、セラミックパークMINOなどタイルに関連した施設を見学した後に、タイル製造工場の日東製陶所を見学しました。長良川国際会議場では担当者による施設案内を受けながら普段なかなか見ることのできない国際会議室などを含め見学しました。各種施設の見学を通じて設計者の思いを感じ取ることができたのではないかと思います。

今回の合宿研修を通じ得られたことが、今後の勉学や進路選択の参考になることを願っています。最後に本研修にご対応いただきました皆様に深くお礼申し上げます。

岐阜県庁舎にて担当者から説明を受ける

宿泊施設にて集合写真

長良川国際会議場にて担当者から説明を受ける

4年生 研修旅行

A科で海外研修が再開しました。
次年度から全学科で再開予定です。

機械工学科 Mechanical Engineering

担任／長谷川　雅人

4年機械工学科は9月25日から9月27日に2泊3日で岐阜県、愛知県および滋賀県に国内研修旅行に行ってきました。初日はフェザーミュージアム、中部電力長良川発電所、かがみがはら航空宇宙博物館の見学を行いました。長良川発電所は河川からの流れ込み式で落差27mという小規模な発電所でしたが、「登録有形文化財」や「近代化産業遺産」に登録、認定されており、明治以来の長い歴史を感じながらの見学となりました。2日目にはまず出光興産愛知事業所を訪れ、広大な敷地にある貯蔵タンクや石油精製プラントを見学したあと石川高専OBから具体的な業務内容やワークライフバランスを考慮した働き方などについて聞くことができました。午後はJICAのなごや地球ひろばを訪問し、SDGsについて学ぶ展示の見学や、海外協力隊で活躍された方の体験談の聴講を通して、国際協力の重要性を学びました。最終日はブリジストン彦根工場で、パーツの張り合わせ・加硫成型の工程を経て乗用車用タイヤが作られていく様子を間近で見学することができました。最後に立ち寄った彦根城では時間の限られた中、天守にも登りましたが、外の眺めよりも中の急階段の昇り降りのほうが印象に残ったかもしれません。発電所、石油プラント、国際協力体験施設を見学した今回の国内研修旅行を通して、最終製品でイメージされる「ものづくり」のほかにもいろいろな仕事が将来の進路として広がっていることを理解してもらえたらと思います。

彦根城天守

なごや地球ひろば

中部電力長良川発電所

電気工学科 Electrical Engineering

担任／河合　康典

電気工学科4年生は、9月26日(火)～9月29日(金)に3泊4日で九州に行きました。26日はJRで福岡県に行き、株式会社安川電機を見学して大分県に移動しました。安川電機では、産業用ロボットの見学、ロボットの製作過程を学びました。27日は龍巻・血の池地獄、九重夢大吊橋の見学後に熊本県に移動して、三菱電機株式会社パワーデバイス製作所でパワーデバイスの製作工程を学びました。28日は、熊本城を見学した後にフェリーで長崎県へ移動して、大浦天主堂とグラバー園に行きました。29日は, 軍艦島上陸クルーズに参加して、福岡空港から空路で帰ってきました。九州で盛んな半導体産業を見学できたこと、「電気」ではなく「電機」メーカーについて興味を持つ機会になればよいかと考えています。

また、10月20日(金)午後、JAIST(北陸先端科学技術大学院大学)にて1日留学体験プログラムを実施しました。JAISTの留学生と文化、食べ物などのキーワードを通して、英語で会話をするよい機会となりました。

安川電機

熊本城

軍艦島

JAISTの1日留学体験プログラム

電子情報工学科 Electronics and Information Engineering　担任／山田　洋士

日本トップレベルの活動を行っている場所を見学させていただき目標とすること、語学研修施設TOKYO GLOBAL GATEWAY（TGG）での体験を通じて刺激を受けること、学生時代を彩る楽しい体験を得ることを目的として、電子情報工学科4年生の研修旅行を3泊4日で実施しました。

富士通株式会社では、オフィス内部を見学させていただき、仕事の選び方についても助言をいただくなど、充実した時間を過ごすことができました。東京大学では、本校専攻科出身のI君から研究室の紹介を受けました。彼はこのほど博士学位も取得したとのことで、嬉しく感じています。チームラボStudioでは、本校卒業生の社員の方に業務内容をご紹介いただき、学生たちは人生の歩み方や求められる能力を肌で感じたのではないでしょうか。展示施設プラネッツは圧巻でした。

NICT（情報通信研究機構）では、Beyond5G研究開発推進プロジェクトの紹介や超小型原子時計と時空間同期の研究者の方々によるご説明を賜り、大変ありがたく、恐縮いたしております。アンケート結果からは、大変楽しく有意義だったという声が多く、お世話になった皆さまに感謝申し上げます。

TGG半日コース

東大先端研 身体情報学分野 稲見・門内研究室

チームラボプラネッツ

NICT-情報通信研究機構

NICT-情報通信研究機構のエントランス

環境都市工学科 Civil Engineering　担任／髙野　典礼

9月25日（月）、しまなみ海道に連なる橋を見るために福山駅まで列車で向かいました。駅のホームから福山城が間近に見られます。その後、生口島の瀬戸田観光案内所へ移動し、サイクリング班と平山郁夫美術館・大山祇神社見学班に分かれ、それぞれ瀬戸内の自然と文化にふれあいました。

2日目、山間の古い橋を見に行きました。愛媛県現役最古の曲弦トラスと千野々橋は大正14年、2005年土木学会選奨土木遺産の大宮橋は昭和2年に完成した橋です。午後からは、一方は吉野川の大歩危・小歩危でラフティング体験、もう一方は国指定重要有形民俗文化財の祖谷のかずら橋見学を行いました。

3日目は一日豊島を巡りました。かつて産業廃棄物の島として社会問題になった豊島ですが、アートの島として国内外から多くの観光客が訪れていました。

最終日の28日（木）は明石海峡大橋の主塔289mに上るツアーを体験しました。この巨大建造物は日常の点検によって安全を確保されていることを学びました。

明石駅に着くと、すぐ傍に明石城が見えました。瀬戸内を巡る研修旅行では城を目にする機会が多くあり、彼らには日本が誇る古代建造物に劣らない立派な建造物を手掛ける人物となってくれることを願っております。

荒れた産廃撤去地で熱い説明を受ける

先が見通せない橋桁内

建築学科 Architecture　担任／豊島　祐樹

4年建築学科はコロナ禍以降初めての海外研修旅行として、9月25日から28日の3泊4日で台湾へ行ってきました。1日目は小松空港から台湾桃園国際空港へ到着後、鶯歌陶瓷老街という陶磁器で有名な街を散策し、夕食はモンゴリアンBBQを楽しみました。2日目は台湾大学において、研究室訪問、英語でのプレゼン、キャンパス内見学ツアーを行い、大変充実した国際交流を行うことができました。有名な台湾料理店「欣葉（シンイエ）」で夕食を食べた後、夜市で自由時間を取って各々台北の街の熱気を感じました。3日目の建築見学では、熊谷組のご協力で台北の有名現代建築を巡ることができました。夕方には観光地としても有名な九份を訪れ、ノスタルジックな雰囲気を堪能しました。4日目は朝6:35発のフライトに向け3:30にホテルを出発したため、みんな眠い目をこすりながらの帰国でした。

初めての海外という学生も多く、外国語を学ぶことや海外へ出ていくことへの意識が大きく向上したようです。多くの方にお世話になり、充実した研修旅行となりました。感謝申し上げます。

台湾大学での集合写真

九份観光の様子

ROBOCON

高専ロボコン2023を終えて

ロボット研究部顧問／嶋田　直樹（電子情報工学科）

今年度のロボコンは「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」という競技で、最高で2.5mほどの位置に吊り下げられたフルーツを模したカラーボールをどれだけ多く獲得できるかを競うものでした。高所に届く機構が必要となる一方で、角材による段差やロープによる仕切りを越えなければならないなど、トータルバランスを考えたロボットの開発が必要でした。

Aチームのロボットは「harveghost」、ロープがロボットの中をすり抜けるユニークな構造を持ったロボットです。チームリーダを務めた3M野村くん、3I紙井くん、3M澤田くんが中心となって開発しました。上半身と下半身の2つに分離・結合可能な構造と回路を有しており、ロープをすり抜けるときは分離してロープを通過させ、それ以外の時はロック機構で完全に連結して一体になって走行することができます。また、フルーツを獲得するためのお助けアイテムは平面六節リンク機構と呼ばれる構造になっており、通常は３つのモータを使用しないと動かせない制御が難しい機構でありながら、ストッパやばねをうまく活用することで、2つのモータで展開可能にしています。この点が評価され、東海北陸地区大会では企業賞を受賞しました。

Bチームのロボットは「クマデ☆ヒトデ」、角材やロープをまたいでいく六股の大きな車輪が特徴のロボットです。チームリーダを務めた3E中田くん、3E松山くん、2M前田くんが中心となって開発しました。ロープをまたぐ構造にすることによってロボットの全高を高くすることができ、効率良くたくさんのフルーツを収穫することを目指しました。一番高いところにあるフルーツも熊手状のお助けアイテムと送りねじを使った収穫機構でスムーズに収穫することができていました。一方で、一番高いフルーツを収穫するための機構も大きな車輪ゆえに横幅が大きくなったことからロープの障害がなかなか越えられず、ようやく乗り越えられる方法を見つけられるまでに長い時間がかかりました。また、完成間近の時点でロボットの重量が規定より6.5Kgオーバーしていることが分かり、ここでも解決する方法に頭を悩ませることになりました。

結果として、ルール上の問題でモータの出力を落として本番に臨まざるを得なかったこともあり、試合本番では思ったようなパフォーマンスを見せることができず、両チームとも地区大会敗退という結果になりました。開発段階の見通しが甘かったことは次回に向けての教訓にしなければなりません。しかし、両チームとも紆余曲折を経て大会までにロボットを仕上げることができたのは、諦めずに一つ一つ課題に取り組んだ学生たちの努力の結果だと思います。簡単な方法に逃げることなく、最後まで大量得点を目指して粘り強くロボット製作に取り組んだことは、部員たちを大きく成長させました。

来年度に向けた活動は既に始まっています。石川高専初の全国大会優勝の年が来シーズンとなるよう、ロボット研究部一丸となって頑張っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

令和5年度ロボット研究部↓

Bチーム「クマデ☆ヒトデ」

ピットの力

Aチーム「harveghost」

DESIGN COMPETITION

第20回全国高専デザコン2023において創造デザイン部門で最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞！

指導教員／船戸　慶輔、内田　伸（建築学科）
重松　宏明（環境都市工学科）

▲創造デザイン部門プレゼンテーション

令和5年11月11日（土）、12日（日）の日程で、第20回「全国高等専門学校デザインコンペティション 2023 in 舞鶴（京都）」（通称デザコン）が、舞鶴総合文化センターおよび赤れんがパーク2号棟、5号棟において開催されました。

全5部門からなる大会で、石川高専からは厳しい予選審査を通過し、創造デザイン部門１作品、構造デザイン部門２作品の２部門３チームが参加しました。構造デザイン部門では、２チームとも最大載荷試験40kgをクリアし、その後の衝撃実験にも耐え、総合成績は10位と16位でした。創造デザイン部門では、1日目にポスターセッションおよびワークショップ、2日目のプレゼンテーションののち、公開審査を経て最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞しました。

今年の創造デザイン部門のテーマは「デジタル技術を用いたwell-beingに向けての都市と地方の融合」で、昨年に引き続き3D 都市モデルのオープンデータ「Project PLATEAU(プラトー)」を用いたアイデアが求められました。最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞した「たかが『雪かき』されど『雪かき』～よそ者が担う地域文化の継承～」は、5A岩田さん、宮城くん、4A北川くん、本馬くん、2AC徳成くん＊（指導A科 内田教員）の共同作品です。金沢市の都市構造に起因する除雪課題を取り上げ、どうしても地域住民によるボランティアでしか成り立たない「雪かき」を、無償ではなく有償で、旅行客や大学生に任せる仕組みを提案しています。少子高齢化による担い手不足で存続が厳しい状況は、地域の伝統的な「お祭り」とよく似ています。しかし「雪かき」は、なくすことも、やめることも決してできません。「雪かき」行為にともなう肉体労働的な側面だけではなく、地域住民の交流やコミュニティ形成、交わされる言葉やお礼のやり取りも含めて、地域文化の担い手、都市と地方の融合、かかわる人々のwell-beingに向けての提案としてまとめられています。審査員からは3D都市モデルPLATEAUの活用方法、地域性や実現可能性の高さ、プレゼンテーション含め高い評価を受け、最優秀受賞となりました。

構造デザイン部門では、2019 年東京大会から続いている紙を素材とした橋のデザインで、載荷直前に２つ以上（最大４つ）の部材をつなぎ、水平支間長さ900mmを架け渡す1つの橋を構成します。そのうえで固定荷重（最大４０ｋｇ）に加えて、衝撃荷重にも耐える橋が求められました。大会参加54作品中、最大荷重40kgに耐えたのが9作品、さらに衝撃テストをクリアしたのも9作品でした。そのうち2つが石川高専の作品でした。３つの部品からなる橋で挑んだ作品名「ちいやま」は、４A小山くん、中山さん、長島くん、二口さん（指導Ａ科 船戸教員）の4名の共同作品で、総合10位でした。２つの部品からなる橋で挑んだ作品名「略略罐罐」は、２C岡田くん、清造くん、中田くん、野澤くん（指導C科 重松教員）の4名の共同作品で、総合16位でした。

昨年の空間デザイン部門での最優秀賞受賞に引き続き、石川高専としては2年連続での最優秀賞受賞となりました。過去には、２０１３年大会での空間デザイン部門、2016年大会での創造デザイン部門およびAMデザイン部門、2017年大会のプレデザコン部門、2020年大会のプレデザコン部門での最優秀賞受賞を含めると、6大会、合計7つの最優秀賞を受賞したことになります。

来年の第２１回デザコン2024in阿南は、2024年11月2日（土）、3日（日）、徳島県阿南市で開催予定、メインテーマは「繋」です。

上：集合記念デザコン2023
左下：構造デザイン部門「略略罐罐」
右下：構造デザイン部門「ちいやま」

＊大会参加メンバーには登録できなかったが同研究室で発案からともに取り組んだ学生

PROCON

プログラミングコンテストについて

指導教員／越野　亮（電子情報工学科）

10月14日（土）～15日（日）、福井サンドーム（福井県越前市）で開催された「全国高等専門学校プログラミングコンテスト（通称：高専プロコン）」の第34回福井大会（本選）に本校から3チームが出場しました。

高専プロコンは、「課題」「自由」「競技」の3部で行われ、課題部門は与えられたテーマに即した作品を、自由部門は自分自身で設定したテーマに即した独創的な作品を制作し、その性能を競います。また、競技部門では与えられたルールによるチーム対抗戦を行います。

今年度は本校から課題部門、自由部門、競技部門に各1チームが出場し、自由部門に出場した電子情報工学科2年生5名（荒木さん、鍛治さん、野崎さん、橋本さん、箕崎さん）のチームが提案した「VibraSymphony－全ての人にリアルなVR体験を－」が、ライブ体験を再現するにあたって体に伝わる「振動」に着目した点が評価され、NICT賞とNSD企業賞を受賞しました。

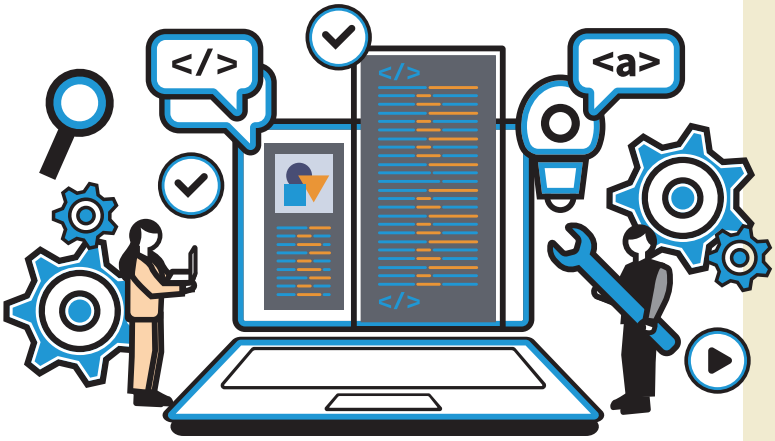
NICT賞の受賞により、毎年3月に開催される総務省・NICT（国立研究開発法人情報通信研究機構）主催の「起業家甲子園（ICTを用いて自ら開発した商品・サービスをプレゼンテーションで競い合うビジネスコンテスト）」の出場挑戦権を獲得しました。

全国高専プロコン終了後、jig.jp新社屋にて
全国高専プロコン出場メンバー

●自由部門 VibraSymphony
2Ｉ 荒木 建貴、箕崎 仁、鍛治 光、橋本 月冴、野崎 大翔

●競技部門
3Ｉ 松元 颯矢、上出 陸矢、中川 耀登

●課題部門
Imagine Quest ―リアルタイム生成型アドベンチャー
3Ｉ 石野 雄大、太島 実穂、木村 沙耶、
1Ｉ 徳重 瑛大



自由部門の学生の感想

チーム全体が2年生という技術や知識の浅い状態から初めてのプログラミングコンテストに挑戦しました。開発過程では何度もトライアンドエラーを繰り返し、諦めそうになることもありましたが、先輩や先生方の支援もあり、NICT賞とNSD企業賞の両方を受賞することができました。本番では、多くの企業の方々から貴重な助言をいただき、今後の作品発展に繋がる点を多く見出すことができました。この貴重な経験を今後に活かしていこうと思います。

PRECON

第17回 全国高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト

■日程：1月27日（土）、28日（日）　■会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

指導教員／香本直子、MOANANU Charlton Bill、西村知修（一般教育科）

両部門で全国大会出場！ シングル部門全国３位！

表彰式

全日程を終えて

●シングル部門

選手／4C 新谷　タイトル：“Elegance in Steel and Concrete”

●チーム部門

選手／1M 中川、1E 吉田（心）、1I 西野

タイトル：“New Precautions for an Earthquake from the View of Engineering Students”

シングル部門発表

チーム部本発表

各校がしのぎを削る予選を経て、両部門で全国大会出場の切符を手にしました。シングル部門では、さらに全国三位受賞の快挙となりました。

シングル部門では、「橋」について維持管理に従事する技術者の不足を述べた上で、土木を学ぶ者としての立場から、橋の魅力を３つ論じました。新谷さんは昨年の特別賞に続き二年連続の受賞となりました。チーム部門では、５月の奥能登地震の経験から、高専での学びが地震への備えにどのように生かせるかを提案しました。また１月の能登半島地震を受け、急遽冒頭部分を加えました。いずれも学生は、発表資料を練り上げ、練習を重ね、溌剌とした発表に仕上げました。１月の活動は地震のために不規則となる中、工夫を重ね最大限の準備を行いました。

今年度も多方面で教職員、同窓会の皆様にご支援いただきありがとうございました。

新谷（4C）

去年もプレコンに参加し、今年は優勝を目指して全国大会に挑戦しました。3位という結果を受けて悔しい面もありましたが、本番1週間前にインフルエンザにかかり辞退も考えたので、今回の全国大会を無事に終えることができて良かったです。プレコンは英語力をはじめ、プレゼン能力や説得力のある内容など必要な要素が多く、他者に自分の考えを伝えることの難しさを改めて痛感しました。

吉田（1E）

今回初めてプレコンに参加しましたが、挑戦してみて良かったと思います。練習だけでなく原稿作成から添削と英訳、スライド作成など全ての工程が大変だったけど新鮮に感じました。本番、今の最大限の実力を発揮できたことと他高専の方や先輩の英語を間近できけたことが嬉しかったです。チームの皆やご指導してくださった先生方、ありがとうございました。

中川（1M）

テーマ決めからスライド作りなどすべての工程が想像以上に大変で、発音やジェスチャーも難しく、何度も心が折れそうになりました。ですが、この挑戦は私にとってすごく良い経験になりました。このメンバーで全国大会に出場できたこと、指導してくださった先生方にすごく感謝しています。これから英語を頑張って勉強し、またプレコンに出場したいです。

西野（1I）

新しいことに挑戦したいと思い、プレコンに参加することにしました。最初は不安に駆られていましたが、練習をしていくうちに少しずつ自信がついてきました。本番は練習の成果が発揮でき、後悔のないプレゼンができました。同時に、自分の英語力の無さを実感しました。ですが、英語学習への意欲向上につながり、貴重な経験になりました。ありがとうございました。

第17回 東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

■11月4日（土）オンライン

選手／4M 山田　タイトル：“Japanese Etiquette”

全国出場枠は逃しましたが、おじぎや神社の参拝、おもてなしといった日本の文化を、オーストラリアでの経験と比較考察し、すぐれた発表に仕上げました。

第40回 文芸コンクール

図書館主催の第40回（令和５年度）文芸コンクールの入賞者は、最優秀1名、優秀6名、佳作11名となりました。今回の応募作品はほぼ読書感想文でしたが、それぞれの個性が強く多様であったようで、審査員の票が分散しました。そのような中、最優秀の作品はほぼ審査員全員からの推薦を受けての受賞となりました。

図書館長として初めて文芸コンクールの審査をしましたが、47点の応募作全てから学生の強い思いが伝わってきて評価がとても難しいと感じました。その中から選ばれた受賞作品はとりわけ表現力が豊かでした。読書の素晴らしさは、単に知識を得るということだけでなく、一種の疑似体験を通して私たちが感じ・考えることにあると思います。文芸コンクールを通して、学生の感性が磨かれ、豊かな発想をもった技術者に育っていくことを期待しています。

今回の受賞作品の一部は、本校図書館のホームページ（学内利用者向け）に掲載されます。

（図書館長 佐野陽之）

最優秀	2E	中田	明日にはまだ失敗がない それだけで生きる価値がある
優秀	3I	白方	被害者意識が生む差別
	2E	気谷	あなたの燃える左手で
	1M	本川	昆虫の惑星 虫たちは今日も地球を回す アンヌ・スヴェルトルップ＝ティーゲソン
	1A	河原	いつか
	1A	川畑	「武道館」を読んで
佳作	3I	毛利	「君たちはどう生きるか」を読んで
	3C	池田	空気を読んでも従わない
	3A	門田	成長と自己探求
	2M	前田	アンネの日記から現代の私たちに
	2I	田中	誹謗中傷を無くすには
	2I	中西	芥川龍之介「鼻」を読んで
	1C	松島	接ぎ合わされた先にあるもの
	1C	宮下	親切な行いは巡り巡って自分に還ってくる「悪因悪果」
	1A	細川	機械と人間が共存するためには

オンリー（ワン）１プロジェクト

学生の持つ自主性、創造性を存分に発揮してもらう支援事業です。チーム又は個人で企画書を提出し、採択されたテーマには、1件あたり10万円程度の援助を行っています。

令和5年度は、10件の応募があり、全ての応募が採択され、令和5年12月19日（火）に最終報告会が開催されました。最終報告会では、代表学生によるポスター発表及び質疑応答により審査員の教員による評価が行われました。

【課題部門】

①建築学科棟前の環境整備

廃棄物が蓄積され、手入れが行き届いておらず、薄暗い雰囲気を持つ建築学科棟前を自分たちがより過ごしやすい場所に改善する。

①

【自由部門】

②再・テクノステップ周辺の紫陽花ロード化

昨年度に引き続き、テクノステップ周辺の景観を向上させる。

②

③第2体育館の傘立て作製

第二体育館の傘立てを作製し、体育館の外観、機能性を向上させる。

③

④移動可能なベンチの作製

安全にベンチを利用できるようにする。

④

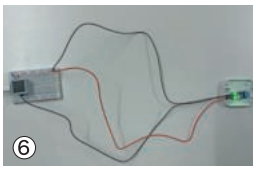
⑤寮を便利に！
～清掃当番管理アプリの開発～

清掃当番を管理するアプリを作り、寮生活を便利にする。身近にある問題を自分なりに解決して視野を広げる。授業で習ったことを利用して専門教科の理解を深める。

⑤

⑥寮を便利に！洗濯機や乾燥機の混雑状況をスマホでチェック

現在、寮では洗濯機や乾燥機の洗濯物の回収を忘れることが多発しており、スムーズな利用ができていない状況にある。そこで洗濯機や乾燥機の利用状況をWEB上で確認出来るようにすることで洗濯物忘れを解消し、スムーズな利用を実現する。


⑥

⑦寮を便利に！大浴場、シャワーの混雑状況をスマホでチェック

寮のお風呂、シャワー室の混雑状況をDX化することでみんなが暮らしやすい寮を作る。

⑦

⑧

⑧デジタルアートを融合させた謎解きゲーム制作

プロジェクションマッピング・ARなど、新しい技術を活かしてデジタルアートを作成し、たくさんの方に触れていただく。

⑨ソーラー無線式BSOおよび設置台の修繕

老朽化が激しいBSO表示板および設置台を修繕する。

⑨

⑩ソーラー無線電光掲示得点板の製作

観客に見やすく、試合運営の負担を小さくするために、野球場の外野に取り付けられているBSOの隣に無線電光掲示得点板を製作する。

⑩

紀友祭 2023

月　日（　）　曜日

テーマ COLOUR

紀友祭実行委員会副委員長 5C 坂井　拍斗

今年度の第58回紀友祭は外部の方もお招きし、なるべくコロナ禍前の文化祭の姿になるようにという思いもありながら、開催する運びとなりました。また、オープンカレッジとの同時開催ということもあり、多くの方に楽しんでいただけたのではないでしょうか。紀友祭担当の先生方をはじめ多くの学校関係者の皆様、教職員の皆様、ご協賛頂いた企業の皆様並びに地域の皆様には心より感謝を申し上げます。今年度は私と永井智也さんの二人で副委員長として委員長代理を務めました。代表して私がこの文章を書いておりますが、永井さんには本当に多大なご協力をいただきました。この場を借りて3000回目くらいの感謝を申し上げます。

今年度のテーマは「colour」。決して誤字ではありません。さまざまな人が集い彩のある紀友祭にしたい、色と色が交じり合うようにたくさんの人と関わって新たな繋がりや交友関係を作ってほしい。そんな思いを込め、colorとourを掛けて作ったテーマです。

今年度は15店舗の露店と新企画3個を含めた19個の企画を実施しました。どちらも学年問わず様々な人が関わって素晴らしいものになったのではないかと感じております。

私は、副委員長という立場で文化祭作りに携わらせて頂きましたが、昨年度まではただの一スタッフでした。実際に務めてみると知らなかったこと、大変なことばかりでイベントを実施することの難しさを身に染みて感じました。しかし、それを遥かに超える達成感を感じることができました。運営の中心となる41人の幹部課長責任者はじめスタッフの人たちとその喜びを分かち合えたことが何よりも素晴らしく、紀友祭をやる意義ではないかと思います。

4年ぶりにコロナ禍前の状態とほぼ同じ規模での開催ということで本当に大変なことばかりでした。4年前、自分が1年生の時の紀友祭は体育館が壊れてしまうのではないかと思うほど楽しめるものでした。そんな紀友祭に戻したい一心で個性の塊でしかない幹部課長が中心となり、3月頃から話し合ってきました。昨年度も責任者等として関わっていた学生はいましたが、ほとんどは初対面という所からのスタートでした。作業を繰り返す中で徐々に打ち解けていき、紀友祭が終わった時には全員で肩を組んで喜び合える仲にまでなりました。最高の幹部課長でした。また、紀友祭を通してできた数々の素敵な縁に感謝いたします。

今年度は新企画（クイズ、激辛、カラオケ）、吹部・漫研・おみくじブースなど新しいことにも沢山取り組み、活気のあり幅広い年代の方が楽しめる文化祭になったと思います。

紀友祭はその時の学校環境、世情、中心を担うメンバーなど様々な要素が大きく影響するイベントです。来年度以降、どのような状態かはわかりませんが、後輩の皆さんは自分達のcolourを出して良い紀友祭を作り上げてください。

最後になりますが、第58回紀友祭にご協力頂いた全ての皆様に心より感謝を申し上げます。

紀友祭という素敵な伝統が受け継がれますよう引き続き応援の程、よろしくお願いいたします。

第58回
高専体育大会

第58回

北陸地区大会・全国大会
総合優勝旗 石川高専へ戻る

学生主事　畔田　博文

ソフトテニス ～表彰式～

今年度の58回大会から北陸地区高専体育大会は、主管となるとりまとめ校は存在するものの開催地は北陸3県で分散開催となり、その最初の年となります。石川高専では、バスケットボール、ソフトテニス、剣道、ハンドボールの4競技を担当し、陸上、バドミントン、サッカー（北信越開催）は福井高専、テニス、卓球、水泳、柔道は富山高専担当のもとで行われました。バレーボールのみが昨年に引き続き東海北陸合同開催として鈴鹿で大会が開催されました。

分散開催となったことから、4高専の関係者が揃っての開会式と閉会式は廃止となりましたが、総合優勝制度と優勝旗の伝達は継続となり、石川高専の選手団は総合優勝を重ね優勝旗を石川高専に持ち帰ること、ならびに関東で開催される全国大会の出場権の獲得を目標に58回大会に臨みました。

今年度の大会は、6月24日の野球を皮切りに7月8、9日を中心会期として3県の各競技場にて分散して行われました。

昨年度、野球は福井高専に敗れ、全国大会出場を逃し、悔しい思いをしましたが、今年度は7月2日の福井戦において8ー6で勝利し、北陸地区1位となり全国大会への出場権を他の競技に先駆けて獲得し、石川高専としては幸先の良い嬉しいスタートとなりました。

団体競技では、この野球の優勝に続いて、卓球、ソフトテニス、剣道、柔道が優勝を果たし、全国大会へ臨みました。また、個人においても多くの選手が優勝を含む入賞を果たし賞状を手にしました。これにより石川高専は北陸地区での総合優勝記録を17へとさらに伸ばし、石川高専に優勝旗を再びもたらしてくれました。この総合優勝旗はこれからも石川高専に引き継がれていくものと期待しています。

今年度の全国高専大会は、関東信越地区の高専が主管を務め8月中旬から8月下旬に開催され、多くの選手の活躍の嬉しい知らせが届きました。全国大会での主な成績を次にご紹介いたします。

柔道 ～試合を終えて～

全国大会での主な成績

野 球 3位

柔 道 73kg級 3位(2C長島)

陸 上 女子個人やり投 優勝(5C 西沢)
女子個人やり投 3位(5A 近藤)
男子個人800m 2位(4A 樋爪)
男子個人三段跳 2位(4M 伊戸川)
男子個人走幅跳 5位(6I 亀田)

陸 上 女子個人200m 6位(4A 森田)
女子個人円盤投 7位(2A 喜多)
男子個人3000m障害 8位(3C 中江)
男子4×100mリレー 8位
(4A小山−4M伊戸川−5A立浪−5I亀田)

テ ニ ス 女子団体(オープン種目)
東海・北陸(混合チーム) 優勝
女子ダブルス 3位(1C岩倉・2C長谷田)

ソフトテニス 男子団体 優勝
女子ダブルス 2位(3C嶋田・2E吉田)

剣道 ～真剣勝負～

石川高専では「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」となることを教育基本理念とし、日々皆さんの成長を支援しています。通常の講義もこの教育基本理念を達成するためには重要なのですが、これだけでは富んだ人間性や実践力は身につきません。これらを育むためには、目標を持つこと、その目標に向け試行錯誤を続け経験を積むこと、そして結果を見てふり返り、次につなぐことが重要となります。課外活動はこれを実践する格好の場となります。入賞した皆さんもできなかった皆さんもこの原点に立ち戻り、競技力だけではなく人間性・実践力も意識的に育んでもらえたらと思います。皆さんがますます逞しく成長してくれることを石川高専は望んでいますし、今後も支援していきます。課外活動に参加していない皆さんも自分を成長させる経験の場として一度考えていてみてはいかがでしょうか。

コロナが感染症法上の5類へ移行され、各会場の入場制限は完全に撤廃されています。保護者の皆様におかれましては、学生の活躍を是非会場にて観戦・応援いただければと思います。最後に、日頃より活動を支援いただいている保護者の皆様、顧問の先生方ならびに事務の方々に心より感謝申し上げます。

野球 ～試合を終えて～

〈北陸地区大会 総合得点表〉

総合得点表	富山高専(本郷)	富山高専(射水)	石川高専	福井高専	国際高専
男子競技合計	29.5	13.5	34	28	0
女子競技合計	11	17	13	17	0
総合得点合計	40.5	30.5	47	45	0
総合順位	3	4	1	2	−

※総合成績は、各競技種目の合計得点で決める。同点の場合は上位種目の多い学校を上位とする。各競技の得点は、参加校数を最高得点とし最下位を1点とする。また、陸上競技において、富山高専の本郷及び射水キャンパスが合同チームで参加した場合は、獲得した得点を折半し双方に加点する。一方のみが参加した場合は、当該キャンパスに全ての得点が入るものとする。

体験入学

2023年度の体験入学は、8月18日（金）、19日（土）の両日の午前と午後に開催しました。１回あたりの定員をAコース3班、Bコース２班、各班40名の200名に設定し、合計４回実施しました。午前のコースを中心に定員に達してしまい、参加者にはご迷惑をおかけしました。中学生588名、保護者412名の参加があり、本校を知っていただく機会になったと考えます。また、当日は各専門学科の数名の学生に引率と説明役をお願いしました。各専門学科の体験テーマを紹介します。

3Dモーションキャプチャ 人の動きをとらえてみよう

学生寮見学

部活動自由見学

10万ボルトで雷を飛ばしてみよう

体験入学オープン

新型コロナウイルスの5類移行を受け、2023年度の体験入学とオープンカレッジは、人数制限を緩和して実施いたしました。2023年度は体験入学の参加定員を1グループあたり40名とし、2022年度の1グループあたり30名より増加しました。オープンカレッジも、紀友祭との同時開催を復活させました。どちらのイベントも、石川高専の教育・設備などについて理解してもらう機会になったと考えます。

校長補佐（入試広報担当）　徳井　直樹

光通信で音楽を聴いてみよう

コンクリートでネームプレートを作ろう

建築環境工学体験

オープンカレッジ

コロナ禍におけるここ数年間は、紀友祭とは別日程での単独開催・事前申込制で開催していました。今年度は、10月28日（土）、29日（日）の2日間に渡り、紀友祭と同時開催で行うことができました。各学科の工夫をこらした展示とともに、視聴覚教室での学校説明会および学科別相談コーナーを設けました。学校説明会は両日とも午前2回、午後1回実施し、中学生と保護者合わせて181名の方に参加していただきました。学科別相談コーナーでは、中学生と保護者合わせて80名の方に来ていただき、それぞれの学科について熱心な質問を受けました。各学科の展示については各自で自由に見学していただきました。中学３年生と保護者の方には本校を知ってもらう今年度最後の機会として、中学２年生以下と保護者の方には来年度以降の体験入学につながる機会となったと考えています。

学科別相談

＆カレッジ

機械工学科

電気工学科

電子情報工学科

環境都市工学科

建築学科

入試説明会について

石川高専では、毎年9～10月に中学3年生とその保護者を対象として入試説明懇談会を開催しており、今年度は以下の日程で実施しました。

日　程	会　場
9月18日(月・祝)	高岡市　高岡文化ホール
9月24日(日)	津幡町　本校　※午前・午後の２回開催
9月30日(土)	七尾市　ワークパル七尾
10月1日(日)	小松市　小松商工会議所　※午前・午後の２回開催
10月9日(月・祝)	津幡町　本校　※午前・午後の２回開催
10月21日(土)	津幡町　本校

例年と同様に各回で定員を設定のうえ事前申込制とし、保護者の方の同伴も１名とさせていただきました。

今年度は昨年度参加申込の多かった小松会場について午前・午後の２回開催とし、全部で９回の開催としましたが、ほとんどの会場について早期から申込が定員に達する等、たいへん多くの方にご参加いただきました。

入試説明懇談会では本校の概要や教育内容についての説明の他、「WEB出願方式」等の入学試験に関する説明を行いました。

その後、特定の学科について詳しく知りたい方に対して、各学科の教員が詳細な説明を行い、どの会場でも多くの方が教員に対して熱心に質問する姿が見られました。

参加された中学生や保護者の方からは、「説明を聞いてますます入学したくなった」、「今回の説明で志望学科が明確になった」、「○○学科について、より深く理解出来た」などの感想をいただくことができました。

本校では中学校教諭や学習塾の先生を対象とした学校説明会も実施しています。中学校教諭を対象とした学校説明会では、本校の概要説明と今年度の入学試験に関する説明を行い、石川県だけでなく富山県や福井県の中学校からもご参加いただきました。

質疑応答の時間には、「推薦による選抜」や「WEB出願方式」等について多くの質問があり、参加教諭の方々は熱心にメモを取るなど本校教員の説明に聞き入っていました。

学習塾の先生を対象とした学校説明会については、参加者の利便性を考慮し、今年度も対面とオンラインでの開催を同時に行い、本校の概要と入学試験に関する説明を行いました。

参加者の方からは「今年度の入試に関する情報が分かり、生徒の指導にたいへん参考になった」、「学校および各学科の求める人材像が理解できた」といった感想が聞かれました。

これらの他に、中学校で開催される学校説明会に本校教員が参加し中学生や保護者の方に本校の説明を行ったり、中学校PTAの皆さんの本校見学を積極的に受け入れたりしています。

これらの様々な機会を通して多くの方に本校について知っていただき、「石川高専に入学したい！」、「石川高専○○学科に入って好きなことを勉強したい！」と思っていただければと思います。

学生会活動について

学生会会長　環境都市工学科 4年 竹中希々花

日頃より大変お世話になっております。石川高専学生会会長の環境都市工学科4年竹中です。高専だよりをご覧の皆様へ、学生会執行部の活動についていくつか紹介させていただきます。

学生会執行部とは、学生の中から募集した有志によって構成されており、学生の意見を集めて、それを学生の代表として執行する機関です。また、委員会や部活動と連携して、学生の活動の支援を行っています。

主な活動は、学生行事の企画運営や学生会費の管理、学生会誌「若人」の発行です。今回は学生行事について少し詳しく紹介させていただきます。今年度は、ここ数年オンラインで行っていた行事も対面形式で開催することができました。役員全員が対面形式を経験したことが無く、苦戦する点も多くありましたが、先生方や学校関係者の皆様の力をお借りしてどの行事も無事に終えることができました。特に年に2回行われる球技大会はどちらも例年とは異なる内容で開催しました。春季球技大会では新しくモルックを競技に追加し、秋季球技大会ではグラウンドの改修工事のためサッカーを実施できない状況となり、e-sportsを追加して行いました。また、紀友祭は今まで感染症対策として入場制限を設けていましたが、通常の開催形式となり、たくさんの方が足を運んでくださいました。今年度は行事の「コロナ禍以前の今まで通り」を少しずつ取り戻し、学校全体が以前より活気づいた1年となりました。

最後になりましたが、皆様のご協力により今年度も学生会執行部で様々な行事を開催することができました。この場をお借りして感謝申し上げます。今後とも学生会執行部へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。最後まで読んでいただきありがとうございました。

学生総会・新入生歓迎会

春季球技大会

秋季球技大会

令和5年度　学生会活動

4月	学生総会・新入生歓迎会
5月	春季球技大会
6月	高専大会壮行会
10月	高専大会報告会 秋季球技大会 紀友祭
1月	学生会役員選挙 冬イベント

有朋寮

2023年度の学生寮運営を振り返る

長野高専との寮生間交流会

寮務主事　岩竹　淳

今年度の学生寮は、男子寮生163名（留学生7名）と女子寮生68名（留学生2名）の計231名でスタートしました。大きな出来事のひとつとしては、大型連休明けの5月8日から、新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類感染症になったことです。2020年4月以降、学校全体で陽性判定者が増加して臨時閉寮にすることや、寮生が濃厚接触者と認定されれば一定期間の帰宅を指示する他、寮内の生活行動にも多くの制約がありました。新型コロナウイルス感染症以外にもインフルエンザや胃腸炎等もあるため、感染防止対策を疎かにすることは出来ませんが、3年以上に及ぶ異様な状況はひとまず収束したといえます。

他方、新たな問題が起こりました。日本では発電量全体に占める火力発電の割合が約7割であり、火力発電燃料の約4割を天然ガスに依存しています。天然ガスの元である、液化天然ガス（LNG）の輸入価格上昇も一要因となり、国内の電気料金が高騰したのです（LNG輸入量最大の相手国を知っていますか？）。電気だけではなく、水道、ボイラーの重油、食材、消耗品等々、生活に関わるありとあらゆる物が値上がりました。

この物価上昇は、2023年1月頃から観察されていましたが、どの程度まで値上がりするのか見通しの立たない中で今年度が始まることになりました。本校では、寮費（光熱水道費・消耗品費）の値上げをせずに物価の変動を見定めてきましたが、遂には寮運営が厳しい状態に至り、後期から値上げせざるを得ない状況となりました。カーボンニュートラルを目指す社会的な時世において、工業系の高等専門学校で学ぶ寮生には、どうしたらエネルギー消費を減らす工夫ができるのか、この機会に意識を高めて欲しいところです。

7月12日には記録的大雨があり、津幡川が氾濫して町内各所で洪水や土砂崩れが発生したことも記憶に新しいところです。学生寮は、陣ヶ台という高台の土砂災害警戒区域外に設置されているのですが、管理棟側溝の排水が追い付かずに大浴場のボイラー室が冠水しました。12月22日の冬季閉寮日には津幡町に大雪警報が発表され、寮坂の脇にある竹藪が雪の重さで枝垂れてしまい、一時的に車の往来が困難にもなりました。飲食物の備蓄や非常用ライトの準備等、自然災害対策も充実させて行く必要があると考えさせられました。この直後、2024年1月1日には能登半島地震が発生。学校敷地内外の道路や体育施設に甚大な被害が出て、野球場横の寮坂が崩落して通行不能となりました。寮の裏側にある町道から物資の搬入が行えるように対応を急いでいますが、完全復旧の目途は立っていません。

2023年度を振り返ると、寮生会行事を完全に再開できたことは本当に嬉しく思いますが、感染症対策とは別の問題で寮運営に悩まされる一年となっています。被災後、かなり厳しい状況下で寮を再開しようと動いていますので、生活しながら次々と問題が発生すると予想されます。寮生の皆さんにも、専門分野毎の知識を用いて問題解決へアイデアを出してもらい、この難局を乗り越えたいと思います。

寮生会幹部と
寮務委員との定例会議

閉寮日に大雪

焼き芋会用の
さつま芋掘り

避難訓練

寮生会について

有朋寮 2023年度総代　河岸　悠太

私は1年生の9月初旬に有朋寮に入寮しました。コロナ禍の影響もあり、通常より半年ほど遅れての入寮となりました。

その影響もあり、入寮後は中学卒業前に寮の説明会で聞いた内容と異なるルールの多さに困惑しておりました。特に食堂は説明会時の広々とした空間から一変し、仕切りによる狭苦しさや席数の減少によって以前の憩いの場の雰囲気は薄れていました。加えて、入寮したばかりの頃は寮内での決まりを守れているか気になったりと、寮での一人暮らしに慣れるのには苦労しました。

しかしコロナ禍の影響もある程度過ぎ去り、生活に慣れてしまえば非常にゆったり過ごせる環境でした。他高専の寮では普段から厳しい決まりを課せられたり、先輩-後輩間での関係性に悩むこともあるそうですが、有朋寮では特段厳しいルールは課せられておらず、点呼当番等最低限すべき仕事をこなせば、皆自由に活動できます。

寮内の設備も充実しており、友達と交流を深めるにも一人でゆっくり過ごすにも最高の環境です。

また、寮では度々寮生会主催のイベントがあります。5月初旬にはクイズ大会や大抽選会を行う新入寮生歓迎会、夏休み前にはかき氷やスイカ、花火を楽しむ夕涼み会、11月ごろには寮で育てたさつまいもやじゃがいもを楽しむ焼き芋会、冬休み明けには餅つき会や5年生を送る会など、内容は様々です。

私は3年生から寮生会メンバーとしてイベントの運営に携わりました。企画や買い出しも含めて準備は寮生会が取り仕切るので、準備中はそれなりに多忙ですが、イベントを楽しむ寮生の笑顔を見たり、感謝の言葉を聞くと「次も楽しいイベントにしたい」と思えます。また、火おこしや餅つきなど、イベント特有の貴重な経験ができ、個人的にも非常に有意義な体験になりました。寮生会は1年生からでも入れるので、「早めに入ればよかった」と若干悔やんでいます。

夕涼み会

令和5年度　寮生会役員
（長のみ紹介）

総　　代	4 I	河岸
海 寮 長	4 I	鵜飼
山 寮 長	3 M	田中
中 寮 長	3 A	奥村
宙 寮 長	4 C	永原

学科・専攻科だより

M 機械工学科

学科主任 堀　純也

機械工学科を卒業する学生に対する求人は、産業機械・ロボット・輸送機械をはじめ、電子デバイス・半導体・医療機器や、身近な食品・飲料、直接関係が無いように思える製薬・化学など、「ものづくり」を行うほぼすべての業種からいただいており、その数も1000件を大きく超えています。機械系の学生は「ものづくり」において、設計開発から、生産技術、製造技術、保守管理、サービスまで、あらゆる職種で必要とされています。一般消費者に届く最終製品に関わる仕事はもちろんですが、実は、あらゆる「ものづくり」には製造するための独自の技術や「装置」が必要であり、「装置」に関わる仕事も沢山あります。特にこの分野は、知識と技術と頭の柔らかさを兼ね備えた高専卒業生が大活躍しています。

社会や経済環境が目まぐるしく変化していますが、「ものづくり」は我々の豊かな生活を支えるために必要不可欠です. 豊かな生活を実現しながら、地球環境の維持を両立してゆけるよう、新しい知識・技術とやさしさをもって社会に貢献することができるエンジニアを育てたいと思っています。

進路状況

令和6年3月卒業予定の5年生は、在籍が39名で、就職希望が22名、進学希望が17名です。採用選考は、多くの企業で従前の対面による面接が復活してきましたが、1次面接まではリモートにより行われることが多く、勉学に負担とならない形で選考が進むケースがほとんどです。昨年度以上に、多くの企業、幅広い業種から「高専機械工学科の新卒学生」を求める声がありました。進学は、多くの学生が推薦により合格を勝ち取りました。今年度は、本校専攻科や金沢大学など、地元志向が強い傾向がありました。

[就職先]

DNPエンジニアリング、高松機械工業、YKK、ハウメット・ジャパン、西日本旅客鉄道、キリンビール、コマツ産機、ワクラ村田製作所、加賀東芝エレクトロニクス、富士フイルム富山化学、CKD、三浦工業、京セラ、デンソーテン、第一三共バイオテック、澁谷工業、金沢大学施設部、浜松ホトニクス、メタウォーター、キヤノン電子、北陸電力、福井村田製作所

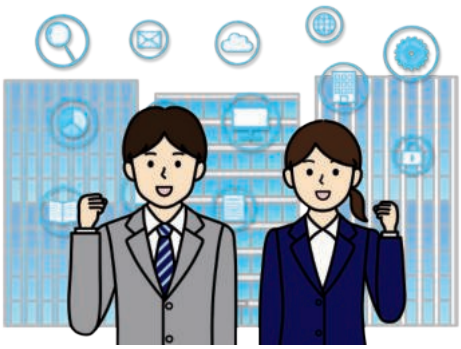
[進学先]

専門学校専攻科(6名)、金沢大学(5名)、富山大学、豊橋技術科学大学(3名)、

学科関連行事

5年生は、11月に卒業研究の中間報告会を行いました。4月から取り組んでいる研究テーマについて進捗が報告され、活発な質疑応答がありました。2月には最終報告会を実施し、1年間の研究成果を発表しました。

4年生は、多くの学生が夏季学外実習に参加しました。今年度は、新型コロナウイルスによる影響も小さくなり、企業のものづくりの現場で、実際の業務を体験することができました。11月には、学外実習報告会を開催し、3、4年生が貴重な体験を共有しました。



E 電気工学科

学科主任 上町　俊幸

企業においてGX実現に向けた取り組みや、AIの導入等による生産現場の自動化が進められるなか、電気工学の知識を持ったエンジニアへの期待が高まっています。電気工学科では，様々な分野で活躍できるよう、特定の分野に偏ることなく、基礎から応用まで幅広い知識と技術を身につける教育を行っています。

進路状況

今年度の5年生は、在籍が41名で、進学希望が17名、就職希望が24名です。就職については、ここ数年の電気工学系技術者の売り手市場が続いており、電力分野や電気・電子系メーカーをはじめ、機械系、化学系、医療系、食品・飲料，建築・建設系など、様々な分野から多くの求人をいただきました。今年度は、対面での就職活動が多くなりましたが、就職希望学生は熱心に取り組み、希望する企業から内定をいただくことができました。

進学に関しては、本校専攻科と豊橋・長岡の技術科学大学に進学する学生が多くいました。中には、受験勉強に励み、学力受験で難関大学への編入学を決める学生もいました。

[就職先]

NTTアノードエナジー(2名)、キヤノンメディカルシステムズ、京セラ、国立印刷局、JR東海、ジェイエムエンジニアリング、シャープ、第一三共プロファーマ、ダイキン工業、東京電力ホールディングス、日本原子力発電、PFU、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン、北陸電気保安協会(2名)、北陸電力(3名)、三菱電機名古屋製作所、三菱電機ビルソリューションズ、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング、USEN-NEXT HOLDINGS

[進学先]

石川高専専攻科(4名)、金沢大学、東京工業大学、豊橋技術科学大学(4名)、長岡技術科学大学(5名)、横浜国立大学、立命館大学

学科関連行事

4年生は、夏季休業期間中に、ほとんどの学生がインターンシップに参加しました。今年度は、対面でのインターンシップが多く、企業での活動を目の当たりにする良い機会となりました。10月には九州へ研修旅行に行き、ロボットや半導体の工場を見学しました。また、大分、熊本、長崎の名所を訪れ、有意義な研修旅行となりました。

3年生は、合宿研修で滋賀・京都を訪れ、工場見学をしました。工場見学をしたことで、将来、エンジニアとして働く姿をイメージすることができ、とても有意義な研修となりました。

5年生は、日ごろから熱心に卒業研究に取り組みました。9月に中間発表会、12月に予備審査会を実施し、それぞれの段階での研究成果を発表しました。また、2月の卒業研究最終発表会において、1年間の成果を発表しました。

秋季球技大会集合写真

卒業研究発表

I 電子情報工学科

学科主任 長岡　健一

一昨年誕生した生成AI、ChatGPTは世界中に大きなインパクトを与えました。今後、生成AIが発展・普及することによって人類の活動は大きく変革されると考えられ、我が国も技術向上に取り組んでいく必要があります。いうまでもなく、このようなテクノロジーは、高度な半導体・集積回路、AIや情報通信技術によって支えられています。本校は「大学・高専機能強化支援事業」に採択され、デジタル分野における人材育成の強化を進めていますが、本学科はその中核として、より高度な電子情報通信工学分野の教育・研究に注力し、これらフィールドのさらなる発展に寄与していくことを目指します。

WROドイツチームと

●学生の活躍

WRO Japan Future Engineers 2023において電子情報工学科学生チーム（5年宇野君、日宇君、1年喜多（敢）君）が昨年度に引き続き国内優勝しました。そして、11月7日（火）～9日（木）にパナマ国際大会（パナマシティ）に出場し、世界の強豪40チーム中、12位の好成績を挙げるなど活躍しました。また、別ページでも詳しく紹介していますが、10月14日（土）、15日（日）に越前市で開催された全国高専プログラミングコンテストにおいても本学科2年生の荒木君、鍛治君、野崎君、橋本君、箕崎君のチームによる「Vibra Symphony－全ての人にリアルなVR体験を－」がNICT賞とNSD企業賞を受賞するなど今年度も大活躍しました。

進路状況

本年度の卒業予定者は41名で、卒業後の進路は就職が23名、進学が18名となりました。本学科では、例年進学の割合が就職に比べて多いですが、今年度は就職の割合が多い結果となりました。

[就職先]

アルファシステムズ、イシダ、イシメックス、ウナルステクノロジー、エクシオ・デジタルソリューションズ、SCSKニアショアシステムズ、SBテクノロジー、クオリカ、サントリープロダクツ、住友電気工業、東芝ITサービス、トヨタシステムズ、日産自動車、パナソニックコネクト、FIXER、フォーステップ、メモリー、メンバーズ、ラック、レアゾンホールディングス、自営業

[進学先]

石川高専専攻科（5名）、豊橋技術科学大学（3名）、金沢大学、富山大学、福井大学、北海道大学、筑波大学、千葉大学、東京農工大学、電気通信大学、大阪大学、同志社大学

学科関連行事

●卒業研究発表会

11月21日（火）、5年生の卒業研究中間発表会をポスター発表形式で行いました。このような形式での実施はコロナ禍以来4年ぶりです。5年生は教員やクラスメイト、4年生等の聴講者に研究目的、進捗状況等について説明した後、熱心に質疑やコメントで議論を交わしました。2月14日（水）には最終の発表会が口頭発表形式にて実施されました。

卒研中間発表

OBOG企業説明会

●OBOGによる企業説明会と5年生による進路アドバイス会

11月13日（月）、12月11日（月）に本学科OBOGによる会社説明会（合計4社）を、これから進路を決定する時期となる4年生を対象に実施しました。企業ではどのように働くのか、またそれぞれの会社の特徴等について説明していただきました。12月20日（水）には、本学科5年生（加藤君、黒川君、前畑君、宮竹さん、佳山君）による、就職・進学の活動についてアドバイスする「進路アドバイス会」を4年生対象に実施しました。アドバイス会の様子は録画も行い、進路について興味のある3年生以下も聴講できるようにしています。今後の進路を考える良い機会になったと思われます。

●電子情報工学科棟改修

電子情報工学科棟（5号館）は1988年に竣工して以来35年が経過し、各所で老朽化が目立ってきていましたが、2024年度に改修工事が行われることになりました。より先進的で持続的な教育研究環境を提供できる施設に生まれ変わる予定です。2024年夏頃から約半年間、工事期間中はご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

C 環境都市工学科

学科主任 津田　誠

環境都市工学科では、安全で快適な人々の暮らしを支える社会資本の整備、防災、環境保全に関する技術を習得し、よりよい都市づくりに貢献できる技術者の育成を目指しています。人々の役に立ちたい、自分を高め、新しいことを発見し、挑戦したい、という目的意識の高い学生さんたちが日々学んでいます。

進路状況

本年度の5年生の卒業予定者は、42名（男子22名、女子20名）で、最終的な進路は、就職27名（公務員5名、インフラ系3名、コンサル系7名、建設系他12名）、進学15名（大学8名、専攻科7名）です。民間企業の選考では対面での実施が戻りつつある中、6月中旬にはほぼ全ての学生が内々定を獲得しました。ほとんどの学生が第一志望の企業から内々定を頂いたことが特筆されますが、十分な準備で選考に臨んだことに加え、先輩方の活躍により本校が高い評価を頂いていることも大きな要因と考えられます。大学の編入学試験では、難関大学にも果敢に挑戦し、見事合格を勝ち取りました。公務員採用試験にも十分な準備で臨み、それぞれ進路を決定することができました。

[就職先]

国土交通省、石川県庁、能美市役所、野々市市役所、かほく市役所、関西電力、中日本ハイウエイ・エンジニアリング名古屋、東京水道、ニュージェック、国土開発センター、日本海コンサルタント、東京コンサルタンツ、アルスコンサルタンツ、五大開発、中央設計技術研究所、鹿島建設、五洋建設，東亜建設工業、鴻池組、真柄建設、豊蔵組、丸西組、IHIインフラシステム、川田工業、北都鉄工、中部地質、三谷産業コンストラクションズ

[進学先]

石川高専専攻科（7名）、金沢大学（2名）、北海道大学、信州大学（2名）、長岡技術科学大学（2名）、立命館大学

学科関連行事

本学科では、専門分野への関心を高め将来のキャリアデザインに役立たせてもらうために、学外活動・見学、産・官・学の交流などを積極的に実施しています．主な活動・見学は、金沢港見学を通じた国土交通省・民間企業との交流（4年生）、大規模更新中の手取川橋の見学（複数の学年）、行政職を学ぶため石川県庁への訪問（1年生）、プレストレスト・コンクリート建設業協会の出前授業（4年生）などです。また、学生起業による「まちなかハザード標識」の設置業務を通じた実践的な活動（3年生）についても取り組んでいます。

資格試験にも積極的に挑戦し、本年度は、技術士一次試験に14名、二級土木施工管理技士試験に26名が合格しました。

手取川橋梁大規模更新中の現場見学（3C）

学生起業による「まちなかハザード標識」の設置業務

石川県庁訪問（1C）

A 建築学科

学科主任 村田　一也

入学後、建築学科の学生たちは、建築設計に関わる設計製図、施設計画、構造計画、設備計画、材料特性について基礎から応用まで広く学び、都市的・社会的な課題の解決に取り組んでいきます。家具から建物、地域までの幅広い対象を相手にし、確かな知識をベースに膨らませた構想力でもって企画提案をしたり、実際に造ってみたりしながら、建築的な解答を探ります。

●学生の活躍

第20回全国高等専門学校デザインコンペティション（通称デザコン）が、2023年11月11日、12日両日、舞鶴で開催されました。創造部門で、4、5年生合同チームが最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞し、デザコンでは通算5大会での最優秀賞受賞校を表彰する取り決めがあり、今回の受賞で石川高専建築学科の表彰が決まりました。第14回高校生の建築甲子園では石川県選抜を勝ち抜き、3年生が全国大会優勝を果たしました。

第50回石川県デザイン展では学生部門第2部で、3年生が部門最優秀賞となる金沢市教育委員会賞を受賞しています。また、学生部門第1部で奨励賞も受賞しました。第3回「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業では、優秀賞を3年連続で受賞しています。第29回北陸の家づくり設計コンペでは佳作を4作品が、未来に続くインテリアコンテストでは高校生の部で優秀賞を2作品が受賞しました。また、専攻科1年生が、日本建築学会北陸支部大会若手優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。

宅地建物取引士資格試験に2年生が合格。建築CAD検定試験2級に3年生３名、４年生１名が合格しています。カラーコーディネーター検定試験に２年生１名が合格しています。

石川県デザイン展での表彰式

木の文化都市・金沢ミライまちづくり学生提案事業での
プレゼンテーション

進路状況

本年度の卒業予定者は42名で、卒業後の進路は、就職23名、進学17名となります。

[就職先]

大和ハウス、セルコホーム、東京ガスネットワーク、サンテンコーポレーション、清水建設、熊谷組、森田建設、大阪ガスマーケティング、JR西日本、イリア、綜企画設計、日本環境アメニティ、鹿島建設、大林組、乃村工藝社、法務省、正栄産業、大屋設計、長谷工リフォーム、三菱プロパティマネジメント、LIXIL、浦野設計

[進学先]

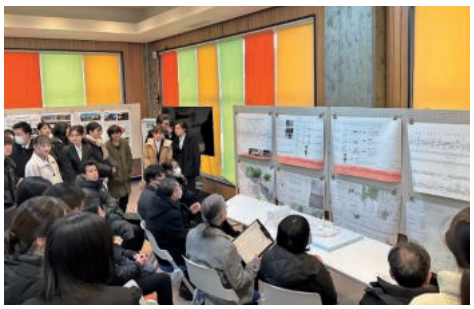
石川高専専攻科（5名）、千葉工業大学、早稲田大学、京都工芸繊維大学（3名）、信州大学、横浜国立大学（2名）、お茶の水女子大学、東京都市大学、東京都立大学

学科関連行事

５年生は、前半は進路を決めるべく就職活動、編入学試験に取り組みながら卒業研究を進め、６月13日に中間報告、10月10、12、13日に中間審査、12月６日に最終確認をし、１月12日に提出締切、１月24日、26日に卒業研究発表会（審査）を実施しました。

４年生は、夏季休業中に、34名が29社で学外実習に参加しました。また、この学外実習報告会を12月13日に開催しました。コロナ禍で中止となっていた海外研修旅行については、他学科に先駆けて復活させ、9月25日～28日に台湾を訪れました。その他、課題演習発表会を、前期分７月21日、後期分２月29日に開催しました。

３年生は、９月28日、29日に合宿研修として、愛知・岐阜の建築を巡りました。



卒業研究発表会

専 攻 科

専攻科長 山田　悟

現在の専攻科の在籍者数は、1年電子機械工学専攻が21名、環境建設工学専攻が9名、2年電子機械工学専攻が17名、環境建設工学専攻が10名となっています。

今年度から、専攻科カリキュラムが変更となりました。1年生は新たに編成されたカリキュラムのもとで、出身学科で学んだ知識や技術を深化させるとともに、他分野の知識を学んでいます。

進路状況

今年度は、２年生27名中4名が大学院へ進学予定です。就職希望学生のうち約48%の学生が長期インターンシップ先企業から内定をいただいており、長期インターンシップが学生の進路決定の参考となっているかをうかがわせる結果となっています。

[就職先]

●電子機械工学専攻

EIZO、オープンテクノロジー、金沢村田製作所、グランゼーラ·ゲームスタジオ、小松製作所、CTCテクノロジー、澁谷工業、デンソーテン、トランテックス、日機装、北陸信越運輸局、メタウォータ、リコーＩＴソリューションズ

●環境建設工学専攻

安藤·間、石川県庁、ＮＴＴインフラネット、大林組、金沢市役所、清水建設、東洋設計、パナソニックリビング中部

◆創造工学演習

専攻科では、専門分野の異なる学生同士でチームを組み、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めて、最終的には想像の喜びを体得できるよう創造工学演習を実施しています。特に専攻科１年で実施される「創造工学演習Ｉ」は、中学生以下の生徒を対象に科学技術への関心を深めものづくりの楽しさを体験できるようなテーマを考え、その作成を行います。その成果は、「夏休みこども石川高専」において、体験型授業として実施されました。

今年度は、新型コロナウイルスが５類に移行したことで、子供たちが体験できるようなテーマが多くなり、より一層の好評をいただきました。

夏休みこども石川高専での体験型講義の様子

◆長期インターンシップ報告会

長期インターンシップは、10月５日から12月４日の二か月間にわたって実施されました。12月15日には、その成果をインターンシップ報告会として、インターンシップ受け入れ企業だけでなく、本取り組みに興味を持つ企業や団体に参加いただき、発表を行いました。今年度のインターンシップ報告会は、企業技術説明会と同日開催としたため、非常に多くの企業の方にご参加いただきました。

インターンシップ報告会

専攻科 長期インターンシップ

専攻科長　山田　悟

専攻科1年次において単なる就業体験にとどまらず、実務体験を通じ地域企業が抱える課題や社会的課題に対処するため、技術者としての基礎的能力と実務に活かせる応用力を身につけることを目的として、長期インターンシップを実施しています。今年度からは、専攻科が新カリキュラムへ移行し、これまでより一か月短縮された二か月間のインターンシップとなり、10月5日から12月4日に実施されました。一か月短縮されたとはいえ、他の教育機関で実施されるインターンシップに比較して非常に長期間であり、受け入れ企業や団体のご協力なしには実施できない取り組みです。受け入れ企業、団体のご担当者の皆様に厚く御礼申し上げます。

以下に今年度インターンシップでお世話になった企業、団体をご紹介します。

電子機械工学専攻

アルテマ・エンターテインメント、EIZO、かがつう、金沢エンジニアリングシステムズ、金沢村田製作所、管理工学研究所、小松製作所、産業技術総合研究所、東レ・カーボンマジック、PFU、ビットストリーム、FastLabel、プラチナゲームズ、別川製作所、リコーITソリューションズ、ラック

環境建設工学専攻

石川県土木部、エヌ・ティ・ティ・インフラネット、大林組北陸支店、加賀建設、鹿島建設、金沢伝統建築設計、東京コンサルタンツ、日本工営株式会社、前田建設工業

電子機械工学専攻　1年　森田　匠

実習先：東レ・カーボンマジック株式会社

私は、今回の長期インターンシップで、滋賀県米原市にある、東レ・カーボンマジック株式会社にお世話になりました。炭素繊維複合材(CFRP)製品の設計・開発・製作・評価を一貫して行っている企業です。実習では、主に製品の設計開発に携わりました。

私が本科時代に学習しているときは、将来学んだことが役に立つときは来るのか、と疑問をもっていましたが、今回の実習を通して、学んだことが実際に活かされているのを感じました。特に感じたのは設計業務において、部品を加工する際、加工者はどこの寸法が欲しいのか、必要なのかが感覚的に分かり、スムーズかつ明瞭に製図できた時です。本科時代に、工場実習で旋盤やフライスなどの機械を操作して、加工者の経験をしたことが実際に活きていると実感できました。また、授業だけでなく、工具の名称や使用法など、卒業研究を通して身についた知識も、今回の実習では大いに役に立ったと感じています。実際に学んだことが自分の力になって発揮されるのは嬉しく、本科時代の苦労が報われた気がしました。

２か月の実習でしたが、毎日新しい発見と学びがありました。同時に初めて１人暮らしを経験し、日々の家事の大変さを知り、家族のありがたみを感じました。学生時代にこのような経験ができるのは本当に貴重な体験でした。今回の実習で関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。

環境建設工学専攻　1年　部谷　和也

実習先：鹿島建設株式会社

私は、長期インターンシップで鹿島建設株式会社に受け入れていただき、現場と技術研究所で実習を行いました。

インターンシップ以前は、ゼネコンは「施工管理をする」ということは知っていましたが、実際に業務を行う様子や、施工中の現場を見たことがなかったため、ゼネコンで働くことを明確にイメージできていませんでした。そこで、業務内容や働く環境などを実際に見て、体験することで、ゼネコンを知ることを目標に実習を行いました。

現場は、非常に大規模な橋梁の施工を行っており、そこでは主に見学や職員の方々の補助を行いました。職員や職人が実際に業務を行う様子を見て、現場で働くためには、コミュニケーション力や、適切な判断・対応を行う力が必要だと実感しました。また、仮設の現場事務所や宿舎などは設備が整えられており、食事も提供されるなど、働く環境だけでなく生活環境も整えられていることを知りました。

技術研究所では、実験の見学や補助、データ整理など、実務の一部を体験しました。技術研究所の業務を知るとともに、現場に支援という形で携わることや、技術を売り出すビジネスマン的な側面があることを知り、「ゼネコンで働くこと＝現場で働くこと」というイメージが払拭され、視野が広がりました。

長期インターンシップを通し、業務内容や雰囲気などを知ることで、自身の働くイメージが明確になるとともに、自分に不足している力を知ることができました。この経験、学びを今後の学校生活や就職活動等に活かしていきたいと思います。

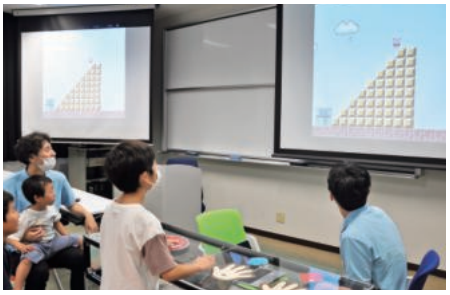
トライアル研究センターだより

トライアル研究センター長　熊澤　栄二

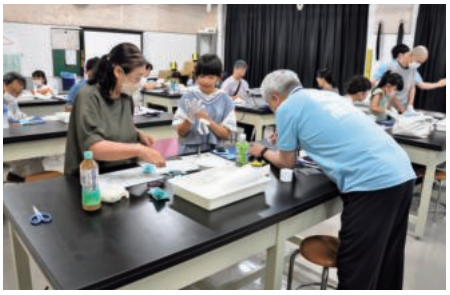
トライアル研究センターでは、子どもたちへ科学に触れて遊んで、もっと科学に興味をもってもらうための出前授業から企業向けのリカレント教育まで、幅広く地域の理科学教育やものづくり教育の支援を行っています。毎年好評を頂いている「夏休みこども石川高専」は、昨年度までは新型コロナウィルスの影響を配慮して規模を縮小して実施してきましたが、今年度は、7月23日（日）に従来の規模で開催し、小学4年生～中学3年生の親子169組380名と多くの参加を頂くことができました。受講者は15の学習テーマの中から一つを受講し、実験や工作、最新の科学技術に触れ、科学やものづくりの楽しさ・おもしろさを体験しました。

なお、本企画はMRO北陸放送「いしかわのこどもみらいキャンペーン」の一環として実施し、本校の技術振興交流会会員企業からのご支援を頂き開催することができました。ここに改めてお礼申し上げます。

協賛企業：アイナックス稲本、アクトリー、アルスコンサルタンツ、上村電建、EIZO、国土開発センター、コスモサミット、第一電機工業、高松機械工業、田中昭文堂印刷、日本海コンサルタント、福島印刷、丸西組、森長電子、ユーコム



学びながら遊ぶ！センサーゲーム体験！



おどろき！つくって遊ぼう魔法の鏡

ダ・ヴィンチの橋を作ろう！

出前授業

令和5年度は、本年度採択を受けたSTEAM教育支援事業を中心に41の出前事業を実施しました。

実　施　日	講　座　名	担当教員等
4/11	小学生プログラミングコンテストの講評とSTEAM教育支援について	越野　亮
4/26	能登町の地域資源は何か？それに対してデザインや建築にできることは？	豊島 祐樹
4/29～11/9（全9回）	中学生ロボコンの支援	穴田 賢二
5/15～2/19（全7回）	プログラミングクラブの指導	越野　亮
5/27	WROを目指そう！MROロボット教室	越野　亮
5/28	ロボコンマシン展示実演	嶋田 直樹
6/5～2/1（全8回）	WRO Japan指導	越野　亮
7/15	K-Labワークショップ	越野　亮
7/22	WRO Japan2023石川地区予選（小学生・中学生・高校生部門）	越野　亮
8/4	実験・工作だいすき教室ーふしぎ？空気のちからー	飯田 忠夫、鍛治 桃子
8/12	石川高専体験教室	越野　亮
9/2	防災すごろく	新保 泰輝、寺山 一輝
9/23	STEAM教育	越野　亮
9/23	小学生向けスツール制作ワークショップ	秦　明日香
11/18	中学生ロボコン石川県大会	穴田 賢二
11/25、12/6（全2回）	VTuberになってみよう	越野　亮
12/2	中学生ロボコン東海北陸大会	穴田 賢二
12/2	イルミネーションランタンをつくろう	上町 俊幸、岡本 征晃、田中 文章、矢吹 明紀
12/6	実験・工作だいすき教室ースノードームライトを作ろうー	池上 和広、鍛治 桃子

技術振興交流会

副校長（地域・国際連携担当）　道地　慶子

本年度開催した技術振興交流会の主な事業を時系列で以下に紹介いたします。

●令和5年技術振興交流会総会および産学官交流懇談会

日時：令和5年8月23日（水）
場所：津幡町文化会館シグナス

技術振興交流会総会

●第34回技術振興交流会見学交流会

日時：令和5年11月17日（金）
見学先：金沢市民サッカー場
（建設工事：熊谷組・植木組・鈴木建設・北陸工建JV）

●第17回企業技術説明会

日時：令和5年12月15日（金）
場所：本校第一体育館、第二体育館　参加企業：130社

見学交流会後の懇談会

●技術振興交流会研修事業

・石川高専教員によるリスキリング講座（全2回）
　9月29日（金）第１回「生成AI入門」
　10月31日（火）第２回「生成AI応用」

・スキルアップ中核人材育成講座（全3回）
　11月18日（土）第１回「自分を活かすための自己理解」
　12月16日（土）第２回「チームの中で自分を活かす」
　1月28日（日）　第３回「傾聴とコーチング力で
　　相手の力を引き出し活かす」

第34回技術振興交流会見学交流会

●石川高専テクノフェスタ2024（開催予定）

日時：令和6年3月27日（水）
場所：本校視聴覚教室

今年度はコロナ禍前のように各種事業を対面で実施することができ、また産学官交流懇談会や見学会の後に行っていた懇親会も再開することができました。

技術振興交流会総会に引き続き開催した産学官交流懇談会では、昨年度英語プレゼンテーションコンテストで準優勝した学生と、WRO Japan 2023 FUTURE ENGINEERSの全国大会で優勝しパナマでの世界大会に参加した学生からの活動報告を行いました。

技術振興交流会見学交流会では、まず見学先である金沢市民サッカー場の概要について、熊谷組北陸支店 建築部 金沢市民サッカー場建設工事（建築）現場代理人の竹本寛之氏からご説明いただきました。その後現地に移動し、ダイナミックな構法に繊細な設計で実現された斬新なサッカー場を体感しました。見学に引き続き、本校一般教育科・南雅樹教授より「健康・スポーツ科学から行った地域貢献へのアプローチ～他高専での実績から～」、同・和久井健吾講師より「科学の眼で見るスポーツ」の2本の研究報告があり、保健体育科教員の研究が地域でどのように活かされ、貢献できるかを知っていただくよい機会となりました。

今年度になり会員数は300企業・団体（個人会員含む）に迫り、会員の皆さまと本校との更なる交流が活発化され、深まることが期待されます。

企業技術説明会

副校長（地域・国際連携担当）　道地　慶子　　トライアル研究センター長　熊澤　栄二

●「第2回進路支援講演会」と「第17回企業技術説明会」を開催

令和5年12月15日（金）、本科3・4年生を対象として「第2回進路支援講演会」を対面とオンラインを併用して行いました。その後、本科3・4年生および専攻科に進学予定の5年生、専攻科1年生を対象として、「第17回企業技術説明会」を開催しました。昨年度まではコロナ禍の影響によりオンライン開催でしたが、今年度は4年ぶりの対面開催となり、午前の部64社、午後の部66社の合計130社、293名にご参加いただきました。

学生たちは、午前午後合わせて計6社の企業ブースを訪問しました。各企業の技術を肌で学ぶ貴重な機会で、学生たち自身のキャリアを考える好機となっています。3年生にとっては、現在学んでいる専門科目と企業の技術内容との結びつきを確認するとともに、今後の勉学のモチベーションにつなげる好機となりました。また、進路選択を目前にした4年生・専攻科1年生にとっては、各企業担当者から直接説明が受けられる絶好の場となりました。

当日は本校卒業生105名が各企業の説明者として来校しました。学生たちは、実際のロールモデルから説明を受けることで、実際の職場についての理解を深め、身近な先輩の活躍に刺激を受けていました。

本会の対面開催にあたり、参加企業の皆様にはご理解・ご協力を賜り、当日は熱意のあるご対応をいただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

会場の様子

企業ブース

■ 参加企業（130社）

株式会社IHIインフラシステム
アイナックス稲本株式会社
あおみ建設株式会社
株式会社朝日工業社
アズビル株式会社
アルスコンサルタンツ株式会社
石川可鍛製鉄株式会社
石川県土木部
株式会社石川製作所
株式会社イシダ
株式会社イシメックス
出光興産株式会社愛知事業所
ARAS（エイラス）石川樹脂工業株式会社
EIZO株式会社
SCSKニアショアシステムズ株式会社
株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー（NTT東日本グループ）
NTTアノードエナジー株式会社
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
株式会社NTTデータ北陸
大阪有機化学工業株式会社
株式会社奥村組
オリエンタル白石株式会社
加賀建設株式会社
株式会社柿本商会
鹿島建設株式会社
鹿島興亜電工株式会社
金沢エナジー株式会社
株式会社金沢村田製作所
株式会社カラフルカンパニー
川田建設株式会社
川田工業株式会社
株式会社管理工学研究所
技研株式会社
北川ヒューテック株式会社
キタムラ機械株式会社
極東興和株式会社
株式会社熊谷組
クレスコ北陸株式会社
コーセル株式会社
株式会社KOKUSAI ELECTRIC
株式会社国土開発センター
小松電子株式会社
小松マテーレ株式会社
コマニー株式会社
さくらホームグループ
佐藤工業株式会社
三機工業株式会社
三光合成株式会社
株式会社シーピーユー
芝浦メカトロニクス株式会社
正栄産業株式会社
ショーボンド建設株式会社
スター総合建設株式会社
住友不動産株式会社
セッツカートン株式会社
株式会社錢高組
株式会社ソディック
第一電機工業株式会社
ダイキンHVACソリューション北陸株式会社
髙田産業グループ
高松機械工業株式会社
高山リード株式会社
株式会社多川製作所
田中昭文堂印刷株式会社
タマダ株式会社
中越興業株式会社
株式会社中央設計技術研究所
中部地質株式会社
中部電力株式会社
辻建設株式会社
津田駒工業株式会社
株式会社デーロス・ジャパン
東急建設株式会社
東京コンサルタンツ株式会社金沢支店
東京水道株式会社
東京ドロウイング株式会社
東振グループ（株式会社東振精機/株式会社東振テクニカル）
株式会社東洋設計
株式会社トーケン
株式会社豊蔵組
株式会社トヨタシステムズ
株式会社トランテックス（日野自動車グループ）
株式会社中川鉄工所
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社
中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸株式会社
ナブテスコ株式会社津工場
株式会社西野製作所
ニチレキ株式会社
日機装株式会社
日東電工株式会社
株式会社日本海コンサルタント
株式会社日本空調北陸金沢支店
日本工営株式会社
日本ファブテック株式会社
株式会社ノトアロイ
能登テック株式会社【リンナイグループ】
株式会社ハイマックス
長谷川体育施設株式会社北信越支店
株式会社PFU
株式会社日野ヒューテック
株式会社福井村田製作所
株式会社フジタ
株式会社別川製作所
株式会社ホクコク地水
ホクショー株式会社
北電テクノサービス株式会社
北陸建工グループ
北陸コンサルタント株式会社
一般財団法人北陸電気保安協会
北陸電力株式会社・北陸電力送配電株式会社
北陸電話工事株式会社
株式会社北陸LIXIL製作所
北菱電興株式会社
株式会社マイスターエンジニアリング
真柄建設株式会社
株式会社牧田組
松村物産株式会社
松本建設株式会社
丸西組グループ
三谷産業株式会社
宮地エンジニアリング株式会社
村田機械株式会社
メタウォーター株式会社
株式会社ユーコム
株式会社横山商会
米沢電気工事株式会社
リコーITソリューションズ株式会社
YKK株式会社
YKK AP株式会社
若築建設株式会社

（50音順）

国際交流だより

副校長（地域・国際連携担当）道地　慶子

今年度は2020年以降新型コロナウイルスの影響で中止していた様々な国際交流活動等が再開され、概ねコロナ禍以前の状況が戻ってきました。2024年度は、全学科における海外研修旅行の再開をはじめとし、今後ますます学生の活動が活発化することが期待されます。

タイ王国キングモンクット工科大学 Summer Trainingを再開

6月12日～7月7日の4週間、キングモンクット工科大学の学生3名を「Summer Training Program2023」の研修生として受け入れました。新型コロナウイルスの影響で受け入れを自粛していましたが、建築学科の研修生として英語部との国際交流会等も含め、さまざまな研修・体験を行いました。7月6日（木）に成果発表会を行い、研修期間で作成した博物館の3Dモデルや CG映像を提示し、英語による説明で本校の学生・教職員と成果を共有しました。本校の学生からは、「4週間という短期間でこれだけの成果を上げられたことに感心し、大きな刺激を受けた。」といった感想も聞かれ、大変有意義な国際交流の場となりました。

成果発表の様子▶

左から嶋倉校長、SRIJAROONさん、KLAYNENさん、SANGDEANさん、熊澤教授、道地副校長

2023年度海外で活躍するOB/OG講演会を開催

本校では、産業界からのニーズを踏まえ、グローバルに活躍できる技術者の育成に取組んでいます。語学力・異文化理解力・リーダーシップ・マネジメント力向上を目指す国際性涵養教育の一環として、7月14日、今回で3回目となる「海外で活躍するOB/OG講演会」を開催しました。海外でのインターンシップや勤務経験を有する5名のOB/OGの方にオンラインで登壇いただき、具体的な経験を交えてお話しいただきました。聴講した本科3・4年生や専攻科1年生、その他希望参加者にとって、グローバルな視点を持つことの大切さや海外で働くことの意義などについて理解を深める良い機会となりました。

海外インターンシップ体験・C科・高井咲音

北欧の建築について・A科・出口拓磨

▲海外研修旅行の報告

留学の報告▶

2023年度海外研修旅行・留学報告会

2020年度以降中止していた４年生海外研修旅行を、「令和5年度高専生の海外活動支援事業」の補助を受け、試行的に建築学科4年生と5年生の希望者に限定した台湾訪問として再開することができました。これについての報告を、今年度個別に海外研修や留学を経験した学生の報告も兼ねて、「2023年度海外研修旅行・留学報告会」として2月2日（金）に行いました。視聴覚教室にてオンライン併用で実施し、本科３年生、専攻科１年生、希望者および機構本部が聴講しました。

今後もますます進むグローバル化に対応できる人材育成のため、国際感覚を磨き、能力を伸ばす海外研修への学生の参加を大いに奨励し、支援していきたいと思います。

同窓会だより

令和6年能登半島地震に伴う配電設備復旧作業

電気工学科 第26回生 井村　透
北陸電力送配電株式会社 富山支社新川配電部保守サービス課

私は平成7年に石川高専を卒業後、北陸電力に入社しました。入社後は配電部門に配属され、石川県内の事業所や本店などの業務を経験し、現在は北陸電力送配電の魚津市の事業所でメンテナンス担当の長として勤務しています。

当社の配電部門には石川高専の卒業生が30名程度在籍し、INCT会(石川高専卒業生の会)を定例的に開催、交流を深めています。

さて現在(執筆日1月14日)、当社グループは1月1日に発生した令和６年能登半島地震により多数の設備被害が発生し、停電の早期解消に向け、自治体などの関係機関や他の電力会社と協力・連携しながら、総力を挙げて設備の復旧に取り組んでいます。

私自身も地震発生当日から出社して、魚津市の事業所から被災地に向けた応援班の編成、送迎対応を実施するとともに、1月10日から13日まで珠洲の事業所に応援に入り、日々の配電線復旧計画の策定等の対応を行いました。

現在の勤務地である魚津電気ビル

広範囲にわたる設備被害や土砂崩れ、道路損壊、家屋倒壊等による通行支障により復旧は困難を極めています。しかしながら、少しでも早く被災地の皆様に電気をお届けするため、他電力からの応援班を含めた施工班の施工能力、当日の復旧進捗状況や日々の道路啓開の状況、復旧資材の搬入状況等を現場の復旧班等と連携しながら把握し、どの班をどういう日程でどの現場に投入すれば早期復旧に繋がるかを考慮して翌日の復旧計画を策定し、それに基づき現場の状況に合わせて復旧作業を実施することにより、停電戸数は徐々に減少しています。

全社員が交代で復旧に当たる状況が続いていますが、今後も早期復旧を目指すとともに、能登地区の復興に向けて、尽力していきたいと思います。

石川高専生の皆さんからも、能登地区の復興に向けて、できる範囲でのご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

(1月5日 北陸電力送配電X(旧ツイッター)より引用)

(1月11日・13日 北陸電力送配電X(旧ツイッター)より引用)

(1月2日 北陸電力送配電X(旧ツイッター)より引用)

第二の人生？

機械工学科 第13回生 新谷　隆二

私は15歳で故郷を離れ、石川高専に入学し、寮生活を始めました。その後、大学、大学院へと進学し、1年間の民間企業勤務を経て転職、石川県工業試験場で繊維関係・機械関係の研究・指導に従事しました。石川高専同窓会とは、卒業後約30年間ほとんど関わりを持たず過ごしてきましたが、諸先輩に推挙されて、同窓会会長を平成26年(2014年)から2年間務め、現在は理事をさせて頂いております。これと言って何かを成し遂げた感のない第一の人生？ですが、それでも皆さまのおかげで、定年まで与えられた職を全うできたと思っています。

実家の父母も亡くなり、ここ十数年何もしていない故郷の農地は荒れ放題、猪の掘った穴があちらこちらに見え、土地の境界もわからない状態になってしまっています。令和4年(2022年)3月末で、石川県工業試験場を定年退職したことを機に、故郷の耕作放棄地をきれいにしたいと思いました。いざ、昔見ていた畑に戻そうと草刈りを始めましたが、２ｍを超えるススキの大株、１ｍを超えるセイダカアワダチソウの大群、あちらこちらから伸びている葛のつるに呆然としました。充電式刈払機と自走式の草刈機を購入し、週に一度格闘していますが到底太刀打ちできず、ここ1年半で、目標とする昔の畑の姿の十分の一程度しか、きれいにできていません。春になると、また最初から草刈りをしなくてはならず、しかも6月から8月までの草の成長には目を見張るものがあり、一週間で20㎝は伸びて、はた目からは草ぼうぼうの状態になってしまうからです。昭和30年代に父が牛とつるはしなどでこの地を開拓したことを考えると、今さらながらに父の偉大さを痛感します。

第二の人生？として、一週間に1日の晴耕雨読と2～3日の外国人実習生の技能試験員をし、金銭的には裕福ではありませんが、春にはわらびやふき、夏にはミョウガ、秋には柚子、柿や栗などを採集して、悠々自適に過ごしています。昨今のニュースを見聞きするたびに、人々がすべてのものに優しい世の中になることを祈っています。

田一面のセイダカアワダチソウ▶

◀ススキの大株

NEWS&TOPICS

01 高度情報教育×実践的専門教育による「情報科学融合コース」新設で高度情報人材養成を拡大

本校は、デジタル分野に係る体制強化を図る大学・高専を支援する文部科学省「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択されました（文部科学省 報道発表：令和5年7月21日）。

採択により本校では、KOSENの強みを活かした高度情報×専門教育による高度情報人材を育成するため、令和7年度、機械工学科、電気工学科、環境都市工学科、建築学科に「情報科学融合コース（各学科・定員10名）」を設置し、毎年40名（各学科10名×4学科）の「高度IT人材」を養成します。また、電子情報工学科（定員40名）については先進的な情報教育を行ってより高度な「情報エキスパート人材」を養成します。

これらにより、本校が輩出する高度情報人材は現在の倍増の毎年80名になります。また、これらの成果は他高専の教育や現役世代に対するリスキリング教育にも活かしていきます。

本校は、これまで5年制という高等専門学校制度の特色と全国高専の情報教育を牽引してきたノウハウを活かして、高度産業DX人材の育成など、時代のニーズに応える情報人材の育成に取り組んできました。新たな情報教育カリキュラムの設置・先進情報教育の実施により、我が国の国際競争力と地域を支える情報系人材の量的確保と質的向上に、これまで以上に取り組んでまいります。

03 「高専制度創設60周年記念植樹式」を挙行

高専制度創設60周年事業の一環として、全国の高専において、次の未来に向けて大きく成長することを祈念して記念樹を植樹する「高専の森」プロジェクトが行われております。

本校においても、令和5年9月15日（金）に「高専の森」植樹式を挙行しました。

今回植樹した木は「のとキリシマツツジ」で、5月には印象的な「深紅」の花を咲かせます。本校がますます成長し、国内外から注目される魅力ある人材を育成・輩出し、その先の世代の高専生へ続いていく願いが込められています。

植樹式では、衆議院議員 西田 昭二様、津幡町長 矢田 富郎様、石川県知事 馳 浩 様（代理：石川県企画振興部長 高橋様）からご祝辞を賜り、その後、ご来賓の方々、本校校長及び学生代表による記念植樹を行いました。

植樹式の後は学生を交えて懇談会を実施し、学生から本校の学生会や学園祭（紀友祭）実行委員会の活動状況報告、西田衆議院議員から今後の進路、矢田町長からは高専生の地元定着についてのお願い等について、和やかな雰囲気の中、意見が交わされました。

本校は、記念樹「のとキリシマツツジ」とともに、更なる成長と発展に努めてまいります。

02 野球部が津幡町でボランティア

令和5年7月22日（土）、本校の野球部が、7月12日の記録的大雨により被害を受けた津幡町でボランティア活動を行いました。

野球部員のほとんどが初めての経験でしたが、ボランティアセンターの説明を受けた後、役割分担を決め、効率よく作業を進めていました。

作業周辺の地域は、山からの土砂の流出と川の氾濫によって浸水している家が多く、復旧にはまだまだ時間がかかる様子でした。

部員らは「こんなに近くの地域で、こんなに酷い場所があるとは思わなかった。少しでも力になりたい。」と熱心に作業に取り組んでいました。

04 石川高専マスコットキャラクター「テクト」に決定！表彰式を実施

令和5年10月2日（月）、本校マスコットキャラクター名称募集受賞者の表彰式を行いました。

本校は、国立高専の第4期校として昭和40年に設置され、令和7年に創立60周年を迎えます。そこで、これまで本校のトライアル研究センター等において親しまれてきたマスコットキャラクターを本校認定マスコットキャラクターと定め、Webサイト、各種出版物への掲載など、広報活動に活かすことで本校の特色をより一層広く社会へ発信すべく名称を募集しました。

6月15日から7月6日までの間、学生の皆さんから本校マスコットキャラクターの名称を募集し、本校選考委員会による厳正なる審査の結果、108件の応募名称の中から「テクト」が最優秀賞に選ばれました。

当日は、最優秀賞・優秀賞に輝いた5名の皆さんを紹介し、代表して最優秀賞の環境都市工学科4年新谷さんに、嶋倉校長から表彰状が手渡されました。

今後、このマスコットキャラクター「テクト」が、本校の広報活動で活躍することとなります。

マスコットキャラクターは2Dモデルと3Dモデルの2種類のデザインがあり、キャラクターを取り囲む5色の三角マークは、機械工学科・電気工学科・電子情報工学科・環境都市工学科・ 建築学科の5つの学科を表しています。

＜最優秀賞＞

「テクト」

応募者：環境都市工学科 4年 新谷　咲希

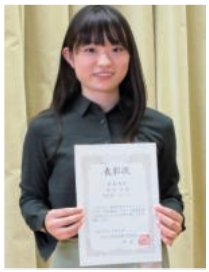
＜優秀賞＞

「FABOT（ファボット）くん」

応募者：電子機械工学専攻 1年 高田　颯

「MEICA（メイカ）」

応募者：電気工学科 5年 中江　陸斗
建築学科 4年 北室　葉那子
電子情報工学科 1年 津田　妃奈美

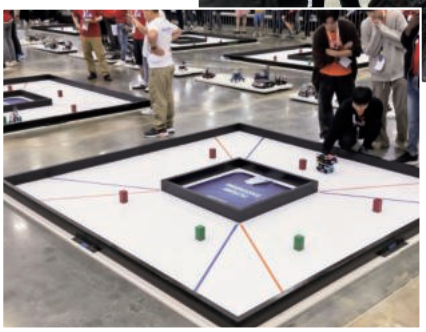


新谷　咲希さん

05 WRO（World Robot Olympiad）2023 パナマ国際大会に出場

令和5年11月7日（火）～9日（木）の3日間にかけて開催された、「WRO（World Robot Olympiad）2023 パナマ国際大会」のFuture Engineers競技に、電子情報工学科5年・宇野さん、日宇さん、1年・喜多（敢）さんの石川高専チームが出場し、全40チーム中12位となりました。

入賞は逃したものの、参加した学生たちは、技術を通して様々な国の人々と交流することができました。



06 第3回「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業において優秀賞を3年連続受賞！

令和5年11月11日（土）、金沢市主催の第3回「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業公開プレゼンテーションが石川県立図書館で開催され、金沢工業大学、金沢大学、金沢美術工芸大学、石川高専の4校から10団体が参加、審査の結果、建築学科・内田研究室（うちけんB）が優秀賞を受賞しました。第1回、第2回に続き3年連続の優秀賞受賞となります。

審査後に行われた意見交換では、第一線で活躍する審査員や金沢市担当者から、提案の更なる発展性や可能性について多角的なアドバイスを頂きました。また、金沢市と協働で取り組むまちづくり「協働のまちチャレンジ事業」（令和4・5年度採択）において、第1回優秀賞受賞作品を社会実装する活動を進めており、その内容についても評価いただき、大変有意義な時間となりました。

＜優秀賞＞

「金沢木柱化計画」
（かなざわもくちゅうかけいかく）

金沢市内の2カ所をモデルに円柱状の構造物を板材で構成された木質多角形化＝木柱化する提案

建築学科・内田研究室（うちけんB）

5年・中村
5年・佐々木
4年・北川
4年・本馬

07 「2023年度卓越した学生に対する授業料免除」認定証授与式を実施

令和5年12月13日（水）、「2023年度卓越した学生に対する授業料免除」の認定証授与式を行いました。

この授業料免除は独立行政法人国立高等専門学校機構が制定した制度で、本校では専攻科生のうち学業成績が極めて優秀な学生を対象として実施しています。

今年度は電子機械工学専攻1年・河合さん、2年・松野木さん、環境建設工学専攻1年・叶田さん、2年・大坪さんの4名が選出され、嶋倉校長から認定証が授与されました。

●人事異動

■令和5年10月1日付け

配置換（転出）

瀬戸　　悟　機構本部事務局特任教授 / 国際参事

■令和6年2月29日付け

退職

山下　順広　機械工学科准教授

［校章の由来］

「石川高専」であることを明確に打ち出したもの、というアピール性に眼目をおいて「高専」の文字を「石」と「川」で両側から円形に囲み、創造と協調の精神が生きたわかりやすいものにした。

（当時 金沢美大教授であった 故 板坂辰治先生のデザイン）

石川高専のたからもの Vol.28

Leica BLK360

建築学科　豊島　祐樹

令和4年度に採択された「大学改革推進等補助金（デジタル活用高度専門人材育成事業）デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業ＤＸをけん引する高度専門人材育成事業」により、BIMによるものづくり教育を推進するために3Dレーザースキャナー「Leica BLK360」が導入されました。ボタンを押すだけで空間の3Dスキャンを行うことができ、得られた点群データをCADやBIMの他、VRやARアプリに活用することができます。手のひらに乗るサイズで重さも約1kgと軽くて持ち運びしやすく、今後、様々な場面で活躍してくれそうです。

随　想

会長就任にあたって

同窓会会長　石村　聖一郎

2022年10月に開催された同窓会総会において承認を受け、会長に就任しました建築学科11期の石村聖一郎です。よろしくお願い致します。

石川高専を卒業し40年近く経ちました。卒業後は金沢市内の設計事務所に就職し、11年の勤務の後、独立し現在に至っております。その間、いろいろな人と出会う中で、どこの学校で建築を学んだのかと聞かれたときに、石川高専だと伝えると、「優秀なんですね」と言われることがたびたびあります。自分では「大学も出ていないし、社交辞令だよなぁ」と思ったりもするのですが、僕自身も同窓生に出会ったときに、やはり高専生は優秀だなぁと感じることがあります。そんなこともあり、石川高専の卒業生でよかったなぁと思っています。現場などで名刺交換をしたときに、同窓生だとわかると、面識はなくても妙に親近感もわきますし、仕事もきっちりこなしていただけるので安心できます。今後も、石川高専の卒業生であることを誇りに思い、頑張っていきたいと思っています。

同窓会理事を２０年以上つとめておりますが、近年は名簿の管理と学生の援助などの活動にとどまっており、隔年開催の総会も紀友祭に合わせて学校での開催やリモート開催になっており、参加者もほぼ役員のみとなっております。以前は、金沢市のホテルで退官された先生方も招いて開催しておりました。コロナ禍も落ち着いてきましたので、少しでも活性化し、同窓会の活動を意義あるものとし、石川高専の発展に寄与したいと思っておりますので、みなさまのご協力をお願い致します。

編集後記

「高専だより」第105号では、令和5年度における石川高専の様々な活動が掲載されています。学生の活動である体育大会・コンテスト・紀友祭・研修旅行だけでなく、教職員によるこども石川高専・出前授業や本校に協力いただいている企業との連携活動など、その活動の活発さと多様さに本校の一教員として改めて驚いています。また、本冊子をご覧の方には、本校の学生が持っている能力が様々な形で発揮され素晴らしい成果が得られたことを実感していただければ幸いです。

さて、令和６年元旦の能登半島地震によって石川高専は多大な被害を受けましたが、教職員による懸命の対応によって1月１５日から授業を再開することができ、学生の学びの機会をほとんど止めずに済みました。完全復旧にはまだ時間がかかりそうですが、本校関係者の皆様のご協力のもと復旧を着実に進めていくつもりです。今後発行される「高専だより」にて、本校の復旧の様子などをご報告させていただく予定です。

古紙配合率80%再生紙と大豆油インキを使用し
環境に優しい「水なし印刷」を採用しました。

編　集：石川工業高等専門学校　広報委員会
発　行：石川工業高等専門学校　総務課総務係

〒929-0392　石川県河北郡津幡町北中条タ1
[TEL]076-288-8000　[FAX]076-288-8014
[E-mail] s-somu@ishikawa-nct.ac.jp
[URL] https://www.ishikawa-nct.ac.jp/